文化財調査報告書

前橋市教育委員会

平成元年度

第 20 集

序

文化で人が呼ぶことのできる時代になったといわれてもう何年かたち、すこし前の様子を考えると隔世の観があります。歴史ブームといわれてからも何年かがたちました。

その文化の中心のひとつを文化財保護行政が担っており、市民からの大きな期待を受けて事業規模は増える一方です。その中で、文化財保護室を平成元年度から文化財保護課へと組織を充実させ、それらへの対応に備えました。

その事業の一端を紹介する目的でこの文化財調査報告書を刊行しています。本年で第20集を刊行するまでになりました。詳しくは本文を見ていただくとして、特筆すべき内容を何点か挙げてみましょう。

平成元年度の保存・整備事業では、臨江閣本館、茶室の保存修復工事と総社歴史散歩道整備がそれぞれ第3年次を迎え、臨江閣は本体工事をほぼ終了させ、散歩道は標柱・案内板設置を終了しました。臨江閣は本年秋には修復の終わった姿を市民のみなさんにご覧いただけるでしょう。

大室公園史跡整備事業では、第1回の委員会を開催し、基本構想の策定にむけてスタートしました。平成2年秋に策定し文化庁への提出まで、委員会、幹事会を重ねていきます。

普及事業では、「前橋城復元図」の作成があげられます。現在の地図に城の絵図を重ねたもので、刊行される大変な反響をよび、用意した地図がわずかの内に品切れになるほどでした。なお、昨年度刊行の「前橋の文化財」も昨年度中に残部がなくなり、市民の要望により増刷を行ない、これは有償で頒布いたしましたが、すでに残部が少なくなっています。

調査事業では、総社町光巌寺の什物、古文書調査を行ないました。蔵の中で大正以来しまわれていた書類箱の中から貴重な400点以上の絵図や文書を調査することができました。また、総社歴史散歩道の観光資源保護調査が終了し、この秋には現地報告会が予定されています。

埋蔵文化財調査では、開発に伴う試掘調査、13遺跡の発掘調査と芳賀団地遺跡報告書第3巻の刊行があげられます。荒子小学校校庭遺跡では、調査した住居跡を校庭に復元し教材として活用できるようにし、大変喜ばれました。元総社明神遺跡は第8次、内堀遺跡は第3次、横俵遺跡は初年度の調査をそれぞれ実施し、貴重な記録を得ることができました。

このように、平成元年度、文化財保護課として多くの事業に取組み、多くの成果を得ることができたと思います。

最後に、事業推進にあたって、ご指導ご協力いただいた関係各位、機関に深く感謝申し上げると共に、この文化財調査報告書第20集が文化の振興、文化財保護のために活用されることを祈念いたします。

平成2年9月

前橋市教育委員会

教育長　岡本信正

目　次

序

目次・例言

Ⅰ　文化財調査委員による調査……1
光巌寺文化財調査……1
光巌寺文書目録　463件 ……3
光巌寺什宝目録　138件 ……12
光巌寺の建築……16
境内配置……16
建築解説……19

Ⅱ　新指定物件紹介……29
大福寺の宝塔……29
小島田の阿弥陀如来坐像……30

Ⅲ　文化財保護課事業……31
1．保護管理運営……31
(1)国有文化財管理……31
(2)国・県・市指定文化財管理……31
(3)史跡の除草・清掃事業……31
(4)文化財パトロール……32
(5)前橋市蚕糸記念館の整備及び管理…32
2．整備事業……33
(1)総社歴史散歩道整備事業……33
(2)標識・説明板の設置……34
(3)八幡山古墳修復工事……35
(4)文化財補修管理工事……35
(5)史跡境界杭設置委託工事……35
(6)大室公園史跡整備委員会……36
3．普及事業……38
(1)「関東の華・前橋城」復元図作成……38
(2)第15回前橋市文化財展……38
(3)教材開発事業……38
(4)第17回前橋市郷土芸能大会……38
(5)「前橋の文化財」増刷……39
(6)第８回文化財普及講座……39
(7)文化財愛護作品コンクール……39
(8)文化財めぐりパンフレット増刷…39
(9)史跡・文化財めぐり……40
(10)各種講座への講師派遣……40
(11)文化財防火デー……40
(12)文化財資料の貸出し……40
(13)文化財保存団体助成……40
(14)その他……40
4．調査事業……41
調査
5．埋蔵文化財調査事業……42
本年度の発掘を振り返って……42
(1)横俵遺跡群(西大室町)……45
(2)横俵遺跡群大道遺跡……45
(3)横俵遺跡群(試掘)……46
(4)内堀遺跡群Ⅲ(西大室町)……46
(5)元総社明神遺跡Ⅷ(元総社町)……47
(6)弥勒遺跡(元総社町)……47
(7)熊野谷Ⅱ遺跡(青梨子町)……48
(8)荒子小校庭Ⅲ遺跡(荒子町)……48
(9)前山Ⅱ遺跡(荒子町)……49
(10)前田遺跡群(試掘)　(東善町)……49
(11)新宿遺跡(試掘)　(飯土井町)……50
(12)芳賀北曲輪遺跡(整理)　(勝沢町)50
(13)昌楽寺廻向遺跡(総社町)……51
(14)柿木Ⅱ遺跡(高井町)……51
芳賀団地遺跡調査……52
あとがき

例　言

1．本書は、前橋市教育委員会文化財保護課で行われた、平成元年度の諸事業の概要をまとめたものである。

2．企画・編集は文化財保護課で行い、市民の方にわかりやすい表現・構成を心がけた。

Ⅰ　文化財調査委員による調査

文化財調査委員による調査は、平成元年度総社町の光厳寺の文書調査を中心に実施した。昨年度什物の調査を行い、その継続ということで、平成元年10月３日から行ない、その結果、大正以来密封されたままになっていた文書など、４００点以上の調査ができた。また、昨年度からの継続として、建造物調査も実施し、結果を報告することができた。

● 光厳寺文化財調査

○名称　秋元山江月院光厳寺
○所在　前橋市総社町総社1607
○住職　田中耕順
○宗派　天台宗

昭和63年度調査
63年10月13、14日
　什物、天井画、朱印状など
平成元年度調査
元年10月３日～12日
　什物、古文書など

平成元年度の調査は、63年度に調査が及ばなかった什物と文書が中心であった。

土蔵の中に、鍵のかかった書類箱があり、その中の文書調査が今回の調査の中心となった。

文書の概要については、以下の文書目録を参照してもらいたいが、そのいくつかの内容について、触れてみたい。

文書の年代、差し出し人、受取人から考えると、これらは、光厳寺の先々代の住職木村觀順氏によってまとめられたものである。

書類箱の引出ごとに光厳寺関係、本山末寺関係、公儀役所関係、秋元氏関係、住職関係に区分されて保管されていた。

明治江戸時代のものが半々くらい含まれており、今後の光厳寺及び秋元氏調査の貴重な資料となろう。

寺号改正願い

文書の中に、明治10年（1877年）に当時の群馬県令楫取素彦あてに出されている寺号改正願いがある。

この願いには次のような内容が書かれている。

わが寺の寺号は、慶長年間の創建時秋元越中守長朝殿母、光巌院の称をもって光巌寺と名乗ったものである。その後、寛永３年（1626年）に幕府より御朱印をいただく時に「巌」と同じ発音の「岸」の字に書いてあった。これまで誤りを直すことができなかったが、創立の由来を考えると、正しい字に直すようにお願いしたい。

文書の中に、光岸寺と書かれたものがあるのはこのためと思われる。

寺が造った葵の紋入りの朱印状の保管箱には光巌寺とはっきり書かれている。

光岸寺と書かれた朱印状が届いた時には寺側ではたいそう困惑したことであろう。しかしその当時には幕府に対して「名前が間違っているので直してほしい」とはいえなかったのであろう。

時代が明治となり、改正を願いでても大丈夫との判断による願いの提出と思われる。

この願いは５月にだされ、同年６月７日には許可になっている。

宝塔山古墳の石棺について

明治９年（1876年）付けの光巌寺16世観順から秋元家へあてた口上書によると、宝塔山古墳の石棺は11世顕純の代には、本堂前の梅林近くに水盤として置かれていたとあり、また12世順海の代に蓋を山王山の塔の下石にしていたとある。

13世広順の代の文化７年(1810年)大隆院殿（秋元永朝）の葬儀に供として来た用人の押田六兵衛がこのことを聞き、石棺と蓋を本来の石窟に納めさせたとある。

この石棺については、これまでは大きさから考えて石室が造られる時に入れられたと考えられていたが、最近の実測調査で後から入れることができるとされている。

この記録から、一度外にだされ元に戻されていることがわかり、石室完成後入れられた可能性が強くなったといえよう。

また、この記録には、宝塔山古墳という名称は記述されていず、彦狭嶋命墓とされている。

寺の絵図によると、今と違い秋元家墓所に南からまっすぐ通じる参道が設けられており、その東に宝塔が立っている様子が見える。

この古墳の名称については、古墳の形が方墳で四角いところからつけられたなどと言われていたが、参道脇に立つ宝塔が名称の由来になったとかんがえられるのではないか。

なお、この宝塔は今は所在が不明である。また、蓋があったという山王山も現在はない。

光巌寺焼失の再建状況「御注進書」

光巌寺は、文化７年（1810年）に雷火のために一部を残して建て物のほとんどを焼失している。

天保14年のこの記録は、文化３年（1806年）日光唯心院より転住の住職、13世広順が文化７年の火災後の再建状況を記したものである。

文政年中に四棟の建築を行ない、仏像などの新調整備などをしたことが書かれている。

光巌寺の再建状況を知る好資料である。

なお広順には天保14年に感状が出されている。

寺関係の文書について

光巌寺は、天台宗の名刹として、府内幷関八州天台宗寺院触頭幷取締の役を任じられており、また群馬郡内に多くの末寺を持つことから、関係寺院の書類が多い。

文書中に末寺の書上があり、什物や記録により、その寺で不明になっている内容を確認できる。市内の寺院では、徳蔵寺、正法寺、大福寺、松前寺、神宮寺などのものが含まれている。

特に、徳蔵寺については、光巌寺が徳蔵寺の内三院を移して創設された経緯と、光巌寺隠居寺として住職が兼帯していたことから、特に多くの文書が保存されている。

平成２年度調査を徳蔵寺で行なうこととしており、今回の調査でわかった内容とあわせて、２年度報告したい。

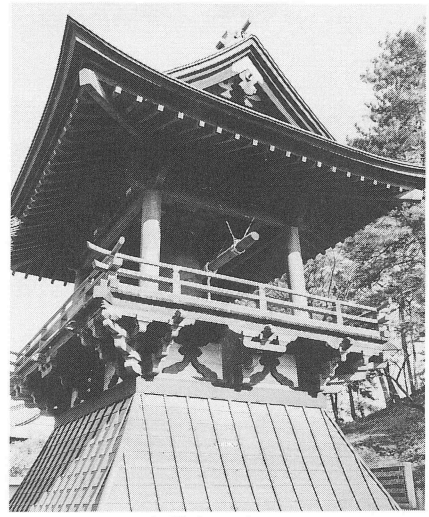
また、慶応の堂修復勧化村々仮割付帳によると以下の村むらに廻文を回しており、光巌寺の檀家と末寺の範囲を確認できる。

粟島、新田、鍛冶、大屋敷、昌楽寺廻、植野並立石、高井、大久保、青梨子、野良犬、前原、北原、東国分、引間並塚田、稲荷台、元総社、鳥羽、江田、上日高、新保田中、高畑、上京目、稲荷新田、上新田、古市、大友、中尾、金尾、小八木

什物について

什物の主なものは、昨年度の報告書で写真を掲載したが、今回什宝目録として内容を含めて報告した。

梨地の金蒔絵、近江石山寺の月の描かれた経机や、やはり金梨地に山水、松、桜の高蒔絵の入った文箱、芦屋釜、打敷などは、更に詳しい調査が必要になろう。



光巌寺・鐘楼

光 厳 寺 文 書 目 録

文書番号	表　　題	年　代	差　出	宛　先	数	備　　考
1 － 1	朱印状	寛永３年５月	台徳院（秀忠）	光岸寺	1	寺領三拾石
1 － 2	〃	寛永13年11月	台猷院（家光）	〃	1	〃
1 － 3	〃	寛永５年７月	巖有院（家綱）	〃	1	〃
1 － 4	〃	貞享２年６月	常憲院（綱吉）	〃	1	〃
1 － 5	〃	享保３年７月	有徳院（吉宗）	〃	1	〃
1 － 6	〃	天保10年９月	慎徳院（家慶）	〃	1	〃
1 － 7	〃	寶暦12年８月	浚明院（家治）	〃	1	〃
1 － 8	〃	万延元年９月	昭徳院（家茂）	〃	1	〃
1 － 9	〃	延享４年８月	惇信院（家重）	〃	1	〃
1 －10	〃	天明８年９月	文恭院（家斉）	〃	1	〃
1 －11	〃	安政２年９月	温恭院（家定）	〃	1	〃
2	徳蔵寺兼帯同意承認書	寛文５年１月	毘沙門堂前大僧正公海	光厳寺当住	1	徳蔵寺を光厳寺隠居寺として兼帯に同意する
3	徳蔵寺兼帯承認書	天和４年２月	伝法心院大円覚院	光厳寺亮Ø	1	同　上
4	朱印受取書	明治元年10月	前橋藩社寺役所		1	朱印状11通の受取
5	光厳寺祠堂金貸附之事定	宝暦11年４月	十一世顕純		帳 1	定めた条の書き上げ
6	上州群馬郡光厳寺常念仏堂仏具帳	元禄15年４月			帳 1	
7	光厳寺祠堂物定祠堂物覚書	宝暦３年12月			帳 1	祠堂関係の書き上げ 大覚王院　深信解院
8	書　簡	３年10月	公海	秋元但馬守	2	大僧正補任と挨拶
9	書　簡	３年13月	雙巖院ほか	光厳寺	1	花帽子袈裟の着用許可
10	念佛堂書付	享保12年			4	
11－１	亮覚令旨				4	
11－２	大僧都披露関係文書				11	
12	御答書	２年28月	安藤家来青木ほか	光厳寺	1	
13	書　付	７年３月	阿野大助ほか４人	光厳寺	2	六百両の覚、演説書
14	永平寺書簡	２年３月	永平寺	光厳寺	1	
15	大檀那より御申渡書附		十三世廣順		1	本堂焼失につき再建願
16	証文ほか	元禄、享保			7	百姓詫証文、届けなど
17	任命状	文政８年10月			1	亮覚を大僧都に任命
18	口宣案	文政８年10月	蔵人頭左中辨		1	同　上
19	亮海贈権僧正口宣	寛文２年11月			3	補任状、口宣案、礼状
20	光厳寺後住亮覚承認書と通知書	天保14年９月			3	住職廣順、真光寺へ転住のため日光歓喜院隠居亮覚が住職になる
21	條　目	享保15年３月	上州光岸寺		1	上州惣社光岸寺條目
22	十三世廣順代御感状	天保14年８月	純海、鈴湛		1	寺が文化七年に雷で焼けた後復興に努力した
23	補任状	寛永９年３月	天海僧正	光厳寺	1	光厳寺を東叡山の直末とする直筆花押あり
24	光厳寺後住承認書	安政３年	日光輪王寺	光厳寺	1	日光唯信院交衆の一人法成坊を後住に承認
25	光厳寺焼失後の再建状況「御注進書」	天保14年	光厳寺住職	龍王院法印 円覚印法印	簿帳 1	文化三年に日光唯心院より転住の住職が文化七年火災後の再建状況を記したもの 文政年中に四棟仏像などの新調整備　注進の控
26	念仏堂飯料證文	元禄15年４月	安藤出雲守	光厳寺	1	亡父供養のため念仏堂と鐘を建立し、詰衆へ飯料として二百両扶助
27	惣社領昌楽寺廻り給方田畠之事	寛永10年２月	秋元但馬守内 高山伝右衛門	昌楽寺廻り庄屋四郎左衛門	1	
28	村岡三郎給料渡方書残	明治			1	
29	使用人貸金支払証預証	明治			1	
30	出納帳	明治	木村観順		1	
31	領収書	明治		木村観順	1	
32	慰労金受取書				1	
33	控	明治			1	上新田村
34	預かり証	明治		木村観順	1	
35	職人使用出納簿	明治			1	
36	仕様帳	明治			1	要用書類の袋に入る
37	領収証、預証類	明治		光厳寺	1	
38	御朱印写	江戸		光厳寺	6	
39	諸札案書				1	

文書番号	表　　題	年　代	差　出	宛　先	数	備　　考
40	地割図線引				1	
41	地割線図				1	線引きのみ
42	東叡山御奉書	天明、文化など			16	
43	御令書并下知状写	文化、安永			3	
44	御触書	正徳から享保			2	寺門改め
45	朱印石高等の報告	慶応４年			1	観理院権僧正当分之内府内并関八州天台宗寺院触頭并取締之儀 21の寺院名あり
46	御朱印御改控	宝暦、天明、天保			1	
47	添簡下書入	寛政、文化など			14	
48	願　書	文久３年８月	正法寺光巌寺	信釋院法印 信心法印	1	立木伐採のこと
49	過	明治20年25年			帳 1	
50	過去帳	寛政元から13			帳 1	
51	過去帳	文政元から７			帳 1	
52	過去帳	寛永元から７ 正徳元から５			帳 1	
53	過	文政８から12			帳 1	
54	過去帳	明治元から８			帳 1	
55	過去帳	慶長、文録など			帳 1	
56	過	明治２から７			帳 1	
57	過	安政５から文久３			帳 1	
58	過	享和元から文化６			帳 1	
59	過	明治14から19			帳 1	
60	過	明治14			帳 1	
61	過	天保７から12			帳 1	
62	過	明治31年から34年			帳 1	
63	過　血脈授与帳	安政２年３月			帳 1	
64	御改人別書上之覚	文化元年６月			1	
65	寺末御改帳	天明６年12月			帳 1	
66	書　状	安政４年９月		東叡山	1	伐木願出の控
67	願　文	文久３年８月			1	竹木のこと
68	御届書	明治19年２月			1	
69	御年貢畑絵図	江戸			絵図 2	十二世順海代検地此絵図出来
70	佛乗院七回忌来客受付	大正９年10月			冊 1	
71	上地事件雑書類	明治			3	
72	雑書類	明治			9	檀家、保晃会関係など
73	土地払い下げ関係書類	寛永から明治			16	
74	補任状	明治28年	天台宗事務取扱		1	三津橋光金を律師に
75	住職進退に関する書類	明治13年			21	木村観順住職願明治13 大野定順辞職願明治７
76	妙見寺大福寺離末之儀二付願	明治14年			2	寺格が変ったため末寺の関係を離れる
77	礼　状	明治			3	大教院焼失営繕根本中堂営繕地への寄附礼状
78	創立沿革並賓物取調具伸	明治			1	下　案
79	定順代院内僧侶戸籍に関する書類一式	明治			14	
80	古墳届出書	明治９年６月				愛宕山、宝塔山、蛇穴山古墳
81	住職御届他	明治15年10月			9	木村観順が小海村松源寺住職になる　聖徳講規約草案
82	崇教会規約草案				冊 1	
83	書　状	明治20年７月			1	
84	寺明細書上下書き	明治18年10月			1	
85	定順贈号	明治20年７月	天台座主台椙覺賽	故大野定順	1	権大僧正を贈る
86	勧進についての連絡	明治９年７月	比叡山延暦寺崇叡会支局幹事	覺常院青柳権大僧正光巌寺 木村権大僧郡	1	
87	寺名取調提出指令	明治17年７月	天台宗務廳	群馬県下教導取締中	1	
88	証　文	明治	大学林幹事	光巌寺僧正	2	菓子代〇圓そば代参圓
89	中教院会計	明治12年12月	中教院青柳興善	光巌寺御隠居	2	課金受取他
90	証　文	明治29年６月		木村觀順	1	菓子代一円
91	許可状	明治15年12月				松源寺住職木村観順に五條の衣服着用許可
92	感謝状	明治31年10月	岩手宮城青森県知事	木村觀順		明治29年海嘯への救恤金一円に対して

文書番号	表　　題	年　代	差　出	宛　先	数	備　　考
93	書　状	明治21年３月	惣本山文書課員	木村觀順	1	
94	金貨奉納願	明治11年３月			1	大教院営繕料五拾圓
95	補任願の形式				1	
96	届　け	明治21年２月			1	
97	連絡文	明治20年７月	大学林支校幹事大学林校長心得	青柳僧正	1	光岸寺前々住大講義大野定順師昇級の儀
98	連絡文	明治19年10月	天台宗務廳	群馬県下宗務取締	1	□□寺の住職が課金を納めず懲戒処分とする
99	連絡文	明治29年６月	天台宗務廳	木村観順	1	
100	送付文	明治26年１月	郡長島田宗正	光巌寺	1	No.101の送付文
101	感謝状	明治25年12月	岐阜県知事小崎利準	群馬県上野国天台宗寺院中	1	明治24年の震災救恤拾圓への感謝
102	補任状	明治28年６月	天台宗事務取扱	中里徳譲	1	補権律師
103	連絡文	明治23年12月	天台宗務廳	群馬県下諸寺院中	1	木村観順を群馬県宗務取締に任じたこと
104	補任文	明治28年６月	天台宗事務取扱	牧田鑛吉三輪武三郎	2	補権律師
105	連絡文	明治９年11月	天台宗務廳	木村観順	1	
106	転任連絡文	明治29年11月	天台宗務廳	光巌寺組寺法類旦住職中	1	光巌寺住職木村観順を長楽寺住職とし光巌寺は兼住とする
107	兼任職解免願いの許可	明治35年４月	天台座主大僧正梅谷孝成	第十四教区常安寺兼住職僧正木村観順	1	常安寺兼住職を解く許可明治35年３月15日付けで願い提出
108	住職任命許可状	明治	天台座主大僧正梅谷孝成	第十四教区常安寺法類惣代大僧都後藤宥順	1	常安寺住職任命の許可
109	兼職を解く辞令	明治35年４月	天台座主大僧正梅谷孝成	木村観順	1	国府村常安寺兼住職僧正木村観順
110	辞　令	明治30年４月	天台座主村田寂順	木村観順	2	長楽寺住職木村観順に新高尾村〻積寺住職を兼務させる
111	礼　状	明治23年７月	営繕部総理権大僧正坊城〻然	光巌寺住職大僧正木村観順	1	根本中堂営繕工事の百円寄附への礼
112	受領書	明治29年９月	天台宗務廳	木村観順	1	補状
113	許可文	明治	天台宗座主大僧正三浦〻源	木村観順	1	
114	力田遺愛神縮拓				1	拓本
115	書　状	12月21日	尾上	木村大僧都		
116	兼務願	明治21年８月		天台座主		光巌寺住職木村観順に青梨子正法寺住職を兼ねさせたい 同年８月24日許可
117	連絡文	明治	新高尾村木村観順	天台宗務廳	1	
118	連絡文	明治15年６月	宗務廳	中講義木村観順	1	三等庶務の辞職の件
119	受　取	明治30年３月	天台座主大僧正村田寂順	群馬県宗務取締僧正木村観順	1	
120	連絡文	明治30年４月	天台宗務廳	権律師中里徳譲	1	
121	萬霊供養旨意書	大正８			1	
122	萬霊供養旨意書	大正８			1	
123	萬霊供養旨意書	大正８			1	
124	上地無代御下渡願	明治12年12月			4	
125	元治二己丑年東照宮二百五十御忌仮日記入	元治			28	
126	壇方帳二	No.127と同じ頃			1	秋元山院代部屋附三札之内
127	壇方帳三	元治２			1	同上
128	上野国群馬郡惣社町仮名附帳光巌寺　他	享和文化			8	
129	御神忌百五十回二百回記録入	文化12と明和元			冊２	東照宮の法事の記録
130	本朝年代即艦序	享保16年仲春			綴１	淳雅の名と印がある
131	掌中詩学自在　全				綴１	
132	上地事件の事御払い下等一件但し仮綴	明治13			23	払い下げ願い　地券持高並出納帳など
133	新古御朱印写等入	天保　享和			14	上野国群馬県漆原村威徳山長松寺

文書番号	表　　題	年　　代	差　　出	宛　先	数	備　　考
134	公儀御年頭出番之事	享保16			2	上州光巌寺
135	御朱印写六通	江戸			8	引間村妙見寺
136	秋元山十四世住職諸用記	天保14年５月			1	
137	地耕図				図１	
138	地割図				図１	
139	惣社町耕地整理地區内光巌寺所有之地図	明治			図１	
140	群馬縣群馬郡總社町大字總社町耕地整理地區確定図	明治			図１	
141	日　記	⧄暦12			冊１	天文寛保延享⧄暦明和の頃の事
142	地籍図	明治			図１	
143	寺配置図間取図	嘉永元年４月		普請奉行野口政之進ほか	図１	
144	本末寺徳分限書上控入	安永５年10月	光巌寺		6	寺の判鑑　徳蔵寺中寺院の明細など
145	末門寺中分限帳	享保３年20年	光巌寺		4	
146	西群馬郡総社町縮図	明治19年			図１	光巌寺有　十九年改正
147	所有地図面	明治			図１	
148	絵図下書	明治			図１	
149	要用雑書類	明治			16	記録受取手紙覚控など
150	祠堂金貸附之定	⧄暦11年４月	秋元山十一世顕純			
151	御上地并除地之外書上帳	明治４年11月			冊１	控
152	建物配置図	江戸			図１	
153	上野国群馬郡之内郷村高帳	天保３年	上州群馬郡惣社町光巌寺		3	形式　徳蔵寺　光巌寺
154	耕地取立に関する書類	明治			1	
155	覚	明和７			1	
156	光巌寺境内外絵図	明治４年11月			図10	
157	畑図面	文久２年２月	十五世定順		図１	
158	朱印地図面	明治４年７月	光巌寺		図１	
159	控				1	
160	公図写				図１	
161	所有地控		光巌寺		冊１	
162	寺の配置図	明治４年７月	光巌寺		図１	
163	一宗御布告	明治２年６月			1	本山から布告の記録
164	絵　図				図１	⧄橋上野馬塚村分
165	財産目録	明治７年５月	光巌寺		冊１	住職大野定順
166	御朱印田面参拾高入		秋元山		図１	
167	岩屋前図面（地籍図）				図１	
168	地割図下書				図２	
169	絵図の袋				1	
170	絵　図				図１	
171	公儀御年頭年勤日記	文政13年１月			5	
172	中庫裡建立絵図	江戸			2	
173	届下書	天保12年４月				
174	光岸寺古絵図面入	江戸			図２	城絵図　光岸寺徳蔵寺
175	御朱印地御年貢地田畑反歩永銭附元帳	嘉永６年５月	秋元山用所		帳１	
176	境内図	江戸			図３	北から西の土手が朱書
177	過　11	安永元から９			帳１	11
178	過　12	天明元から８			帳１	12
179	過　7	元文から寛保３			帳１	7
180	過　5	享保元から10			帳１	5
181	過　9	⧄暦元から13			帳１	9
182	過　22	安政元から５			帳１	22
183	過　16	明和か			帳１	16
184	寺領図				図１	
185	過　20	天保弘化嘉永			帳１	20
186	過　32	明治39と42年			帳１	32
187	過　18	天保元から６			帳１	18
188	過　24	明治元まで			帳１	24
189	過　3	元禄元から16			帳１	3
190	施餓鬼料券文之事下書				1	
191	諷誦文	文化９年涼月			1	永朝　文化７秋病の床
192	歎　文				1	
193	追悼文	文化７年10月	秋元久朝		1	永朝の葬儀の時のもの
194	諷誦文	文化９年９月	久朝		1	喬知の葬儀のもの　正徳４年中秋床に伏す
195	歎　文	文政10年今月	廣順		1	江月院殿二百回忌用
196	211まで歎文				1	

文書番号	表　　題	年　代	差　出	宛　先	数	備　　考
212	御歎文	文化７年	廣順		1	秋元永朝に対するもの
213	歎　文				1	
214	歎　文	安政４			1	廣順のメモあり
215	歎　文				1	
216	歎　文	嘉永５年11月			1	智仙の葬儀用下書
217	歎　文				1	
218	歎文下書	嘉永２			1	法印堯圓　野良犬の神宮寺から宝積寺に天保11年11月に移る
219	豎義遂業證	明治20年10月	延暦寺	観順	1	廣學豎義者圓宗　傳燈之基源也干茲観順　今回遂本業畢仍　其證如件
220	家根葺替寄附帳并会計簿	明治	光巌寺執事			歓募帳　会計簿　手紙
221	包					附大阿遮梨補任明静院光阿
222	辞令　賞状など	明治		大野定順	7	手紙　補任状　玉色金衣着用許可
223	補任状	元治元年10月	第五十五世戒善院僧正	観順	1	三部都法大阿遮梨職之事
224	受業真言院 受者得佛記 ⊠祇祕密印信	元治元年９月	長楽寺五十五世大僧正 良田山五十五世僧正 長楽寺五十五世戒善院僧正要順 長楽寺真言印僧正	観順 観順 観順 観順	4	 蓮華流　⊠祇印信 蓮華流　祕密印信
225	祖先申告書	明治36年５月	従五位秋元春朝 秋元光子		1	５月９日の婚姻に際し先祖に申告した文
226	金剛佛子合行金剛佛子				1	
227	檀家名簿				冊１	
228	栖真号	明治14年11月	管長権大教正大⊠覺⊠	大野定順		権中講義大野定順右宣称大悲院者如件
229	済川院殿百五十回忌差定	文久３年８月			1	法要の役割分担
230	仏の弟子系図	明治			1	観順まで
231	奉迦帳	明治16年４月				堂塔保存のための資金あつめ
232	№231に同じ	明治16年４月				
233	萬霊供養旨意書	大正８			冊１	建塔施主石井松太郎妻石井フジ
234	権現様御條目	貞享４慶長18			冊１	切支丹禁止他宗門法度
235	大沼家譜	文政13年４月	大沼角左衛門		冊１	秋元氏家来　二人扶
236	梵　字	寛文13年閏２月			1	石倉村
237	御朱印写 慶安二年　大猷院 貞享二年　常憲院 安政二年　温恭院 享保三年　有徳院 延享四年　惇信院 寶暦十二年　浚明院 天明八年　文恭院 天保十年　慎徳院				8	徳蔵寺のもの
238	祖中法名住書				冊１	居士信士禅定の区別を家ごとに記録　719
239	祖家世話人連名帳	明治２年３月	秋元山院代		冊１	
240	廻　文	慶応２年12月	秋元山院代		冊１	回覧先は241にほぼ同
241	堂修復⊠化村々仮割付帳	慶応⊠辰	秋元山		冊１	回覧先は次の通り　粟島、新田、鍛冶、大屋敷、昌楽寺廻、植野並立石、高井、大久保、青梨子、野良犬、前原、北原、東国分、引間並塚田、稲荷台、元総社、鳥羽、江田、上日高、下日高、新保田中、高畑、馬⊠、上京目、稲荷新田、上新田、古市、大友、中尾、金尾、小八木
242	唄匿印可状	明治36年７月	梶井三千院門跡 大阿⊠梨大僧正孝成	長楽寺観順		

文書番号	表　　題	年　代	差　出	宛　先	数	備　考
243	券　文	文政９年７月 嘉永５年２月	光巌寺 十四世亮覚	稲荷台村藤井久右衛興 田口寅松	2	金十五両施餓鬼両受取 金三百疋法名料
244	券文下書き	⊠暦４年正月	十一世	不詳	1	
245	梵　字				1	
246	証文控	明治18年６月	十八世僧正観順		冊 2	
247	院号授與之下書	寛政元年12月	十二世順海	高井村福嶋義右衛門	1	
248	書状及び書状写し	慶安、寛政			18	秋元泰朝と名主他から
249	資格授与書	９月30日			1	譽⊠に
250	欠　番					
251	命日一覧				1	
252	廻　文	安政６年７月	秋元山院代		3	十三世廣順の葬儀の件
253	書　状	明治７年２月	増田直夫他	光巌寺	1	
254	書　状	明治２年12月	館林戸部準四郎	光巌寺	1	
255	書　状	明治２年正月ほか	館林石川	光巌寺	1	
256	書　状	５月８日	家令	光巌寺	1	化城院百回忌の事
257	書　状	明治４年11月	家令	光巌寺	2	11月23日と９日付
258	書　状	明治２年３月	秋元家家令	光巌寺	1	
259	法要依頼	明治７年１月			1	化城院殿百回忌
260	書　状	明治２年８月		光巌寺	2	但馬守一万石加増の件寄附と納める連絡
261	献　立	８月12～14日			1	
262	書　状	明治３年３月	秋元家家令	光巌寺	5	
263	手　控	明治４年正月		光巌寺	1	供養料等の控
264	書　状	江戸			6	控、秋元関係位牌等の目録など
265	書状写しなど				5	
266	書翰控など	明治11年４月			7	裏に斉田明
267	戒　験	明治20年９月			6	観順のもの、戒壇を受けた証、六念、メモ、認定証（⊠源より）
268	奉迦帳	明治16年４月				№231に同じ
269	永代法名改	江戸	光巌寺		1	券文の事、金五両を費用として受け取った証
270	手　控	明治４年正月	光巌寺		1	供養料の送付控
271	受領証	明治20年９月	延暦寺事務所	光巌寺	1	祖廟保存資金
272	受領証	明治８年１月	宗務廳	光巌寺住職	1	金三円
273	受領証	明治20年９月	本山延暦寺事務所	光巌寺住職木村観順	1	祖廟前の生花代金一円
274	受領証	明治20年	當執事代大林院権大僧都行敬		1	金一円を元三大師前の花代として木村観順が送ったものの受取
275	証文（受領証）	明法20年９月	本山事務所	光巌寺	1	金五円、平井智順が祖廟保存金として送った
276	新得度	寛延元年11月		光岸寺		新所得度所度者　假名小中将　實名性海　御戒師一品公遵親王　大僧都覺深　深海
277	許可状	享保17年12月	大恵口院大僧都大學王院大僧都	晃覚	1	本蘭色衣着用之事
278	許可状	享保５年10月	功徳院大僧都尚志住心院大僧都覚	玄雄	1	本蘭色衣着用之事
279	許可状	江戸	海龍王院大僧都純海　大恵恩院大僧都稟考	亮覺	1	本蘭色衣着用之事
280	辞　令	明治33年10月	天台座主大僧都中山玄航		1	准別格二等にする旨の辞令
281	許可状	明治７年10月	大學王院大僧都慈秀大園口院大僧都寂恵	順海	1	本蘭色衣着用之事
282	許可状	文化５年10月	法眼	権大僧都廣順	1	三緒五條袈裟之事
283	伐木届け他	嘉永元	光巌寺	高崎役所	1	伐木届　徳蔵寺明細
284	届け一式控	明治	光巌寺	高崎役所	21	徳蔵寺関係書
285	入用書付	江戸	光巌寺			徳蔵寺関係書
286	出火入寺届け下書	天保寛政嘉永	光巌寺	寺社奉行所	5	
287	本末御改寺徳分限帳	延享２年			1	
288	本末寺徳分限書上帳控	安永５年10月	十二世順海		1	
289	宗門人別等諸用帳	江戸	光巌寺		6	前橋高崎川越沼田
290	届け等	江戸	光巌寺		9	№283　284関係
291	増減御改帳	明和２			綴 1	上野国群馬郡小姓足軽町屋敷寺人別

文書番号	表　　題	年　　代	差　　出	宛　　先	数	備　　考
292	届　け	文政元	光巌寺	領主（役所）	13	徳蔵寺境内に行倒人がいたための届け
293	壇方向当用書付下書	文政元	板鼻宿下町住京都大仏師⊠杢法橋玄司	光巌寺	1	本尊の注文の件、三尊で三百両とある
294	御届写	江戸	光巌寺	御奉行所	3	毘沙門堂、輪王寺宮
295	願　文	明治４年２月	光巌寺		1	徳蔵寺合併に反対の願
296	人別書上控	安政５年６月	光巌寺	高崎役所	7	７年目ごとの人別改の書上
297	東照大権現箇條定書 天台宗僧徒径暦衣体之	安政６年12月			綴１	
298	帳　面	享和２年２月		脇坂淡路守	綴１	
299	天台宗人別御改帳	明治３	惣社町之内粟嶋町		綴１	
300	公儀御触書之写	江戸			綴１	
301	書上控	⊠暦、明和		前橋役所	1	
302	元総社百姓詫び証文	元文２年３月	元総社徳蔵寺御屋敷守甚左衛門	光巌寺藤田甚平	1	
303	宗門人別并増減控	弘化３		高崎役所	16	薬王寺の分も
304	寺領租税録ひな形				1	
305	寺号其外明細帳ひな形				1	
306	郷村高帳ひな形				1	
307	正法寺書上入	江戸明治			28	沼田支配所青梨子
308	長泉寺書上入	江戸明治			12	文化の押込記録あり
309	妙見寺書上入	江戸明治			10	
310	大福寺書上入	江戸明治			11	
311	延命寺書上入	江戸明治			22	新保田中
312	常安寺書上入	江戸明治			16	
313	薬王寺書付入	江戸明治			15	下豊岡
314	松前寺一件控	江戸			12	前原
315	享徳院様御遺函並秋元志朝公御奉納記録	嘉永元年３月	十四世亮覚		冊１	秋元久朝
316	享徳院殿御遺函御葬式御中陰諸式並納物	弘化４年10から	十四世亮覚		冊１	久朝
317	御入棺葬送御中陰中法及日記並納物	元文３	秋元山十一世顕純		冊１	
318	大隆院様御葬式諸用入	文化７年７月			17	
319	化城院様御葬送入用記録	安永４年	十二世順海		24	涼朝のこと、遺髪埋葬
320	書　付	２月６日	大壇那		8	
321	願　文	文久元年11月	光巌寺	福井内蔵介他	1	
322	済川院殿百回忌御法事控	文久３年８月	秋元山		1	喬知のこと
323	享徳院殿十七回忌手文	文久３年10月	秋元山院代		1	
324	役僧仕事記録	江戸			1	
325	済川院殿百五十回忌御法事心得	文久３年８月	秋元山用所		1	
326	化城院殿御遺髪御葬式之前	弘化４年11月	亮覚が記録		2	総社町松田家記録の写 涼朝のこと
327	秋元久朝公御供物の件				冊１	光巌寺分
328	入棺葬送一式書物	文久寛保			11	喬房、喬求の時
329	献　立	８月５日夕				
330	化城院殿三十三回忌添書附	文化４年６月			7	
331	書　状	10月21日	太陽寺四郎右衛門	光巌寺	1	大隆院の件か
332	秋元但馬守志朝公御廟⊠献立式	嘉永元年３月			2	
333	秋元家供養費収入と礼状	明治14年10月			9	
334	覚	８月			1	奉納金
335	館林往来入用控	嘉永元年４月			5	御葬式控、書状、献立
336	大隆院様五十御忌手文二通入　同年十月享徳院様拾三回御忌手文回文之事	安政６年７月			5	
337	英長院殿百五十回忌御忌に附御法事書翰	寛政11年８月			9	忠朝のこと
338	照尊院様百五十回御法事書附入	寛延３年10月			10	泰朝のこと
339	誠心院五十回忌法事の件	寛政５年２月			15	
340	中庫裡建立諸寄附入	文化、文政			15	
341	御霊堂塀、御廟所、御修覆諸用書	文化、寛政			7	
342	大工方金子渡帳	文化８年３月	秋元山		1	
343	普請方借用利足帳	江戸			冊１	
344	営繕関係諸般簿	明治10年１月			冊１	

文書番号	表　　題	年　代	差　出	宛　先	数	備　　考
345	営繕用書附入	慶応、安政他			24	
346	覚	江戸			5	工事中の覚
347	上州惣社光巌寺御修復積帳写	安政6	普請方		冊1	
348	惣社巌光巌寺小書院湯殿永解掛塀御垣根替	文久元	普請方		冊1	
349	御屋根御普請負請負金内済方控帳	文久元年6月より			冊1	
350	惣社光巌寺御普請屋根届書	文久元年6月	館林普請方		冊1	
351	十七世智順代御霊堂御廟所に関する書類	江戸			59	
352	書付入	文久元年6月より			1	御屋敷御普請に付諸職人清書下書并清書付入
353	受領証	明治6年9月			1	
354	日　記	明治4より12年			冊1	
355	御修復仮日記	文久2より明治9			冊1	
356	書　状	8月26日	福井内蔵介他	光巌寺	3	
357	御位牌堂御廟所御修復掛入用書	明和4年5月			3	
358	御霊堂御修復入用書付	寛政9年			7	
359	書付入	江戸			4	御屋敷御普請に付諸請負人江被御渡候証文書付入
360	西福寺用書付	江戸			23	稲荷新田
361	⊠積寺書類	江戸			15	
362	万願寺書類入	江戸			10	
363	普門寺用書入	江戸			9	東箱田
364	北原寺什物帳	江戸			14	北原
365	神宮寺書類入	江戸			21	野良犬
366	長栄寺書物入	江戸			16	江田
367	大隆院殿御新葬儀日記壱	文化7より12年			冊1	
368	御修復仮日記	安政4年正月から			冊1	
369	中庫裡下庫裡新建立絵図	寛政8より11年			図4	
370	日　記	元治元年11月			冊1	
371	日記三	文政7より天保7			冊1	
372	日記四	天保8			冊1	
373	辞　令	明治			20	十七世智順
374	清光寺用書	江戸			12	
375	書類入	文政、文化			14	
377	改選総代人届				冊2	
378	西福寺財産預約書	明治26年2月			1	
379	長泉寺財産預約書	明治26年2月			1	
380	光巌寺財産預約書	明治26年2月			1	
381	願いの形式					
382	収入諸費控帳	明治32年3月			1	
383	北原寺財産預約書	明治26年2月			1	
384	普門寺財産預約書	明治26年2月			1	
385	無住寺院収支精算書	明治25年度			1	
386	⊠海死亡已後貳ケ年収支金並二支出払取調帳	明治29年から30年まで			1	⊠積寺
387	西福寺什物調	明治18年10月			1	
388	西福寺事務取扱規約	明治			1	
389	正法寺財産預約書	明治26年2月			冊1	
390	田畑反別帳	明治26年2月			冊1	長泉寺
391	宝積寺新古什物書上帳	文久4年3月			冊1	
392	長栄寺財産預約書	明治26年2月			冊1	
393	光巌寺財産預約書	明治26年2月			冊1	
394	北原寺財産預約書	明治26年2月			冊1	
395	明治廿五年度出納取調帳	明治25年			1	長泉寺
396	北原寺財産預約書	明治26年			1	
397	収支計算調書	明治27年度			1	中尾村の寺のもの
398	壇信徒総代改選御届	明治37年1月	住職、総代	天台座主	1	萬願寺
399	長栄寺財産預約書	明治26年2月			1	
400	門建設願	明治33年2月			1	新保田中の延命寺
401	保存を要すべき古寺調	明治28年9月			1	稲荷新田の西福寺
402	欠　番					
403	日　記	文久元から元治元			冊1	
404	西光寺諸書上早見	享保11			冊1	
405	日記弐	文化13から文政6まで			冊1	

文書番号	表　　題	年　　代	差　　出	宛　先	数	備　　考
406	光明院什物帳并担方帳	文化、安永			3	
407	御修復仮日記	萬延２年正月			1	
408	成就院担那控覚	明和４年３月			1	
409	寺中正光院什物帳	延享元年５月			2	
410	常念仏什物帳	文政７年３月			3	
411	常念仏堂大破届	４月９日			1	
412	秋元家館林以来之日記	弘化３年５月			1	
413	⧄珠院成就院放光院正光院書帳	⧄暦、明和			14	
414	寺中⧄珠院什物帳	明和６年９月			冊１	
415	廃寺合併書類入	明治			28	
416	戸籍帳	明治５			1	徳蔵寺
417	戸籍書上帳	明治５年10月			冊１	妙見寺
418	戸籍書上帳	明治５年10月			冊１	松前寺
419	戸籍書上帳	明治５年10月			冊１	日高の清光寺
420	回　章	明治３年９月	光巌寺	末寺	1	
421	分限記	明治５年10月			冊１	延命寺
422	寺名書上記	明治７年３月			冊１	新保田中の延命寺
423	群馬県廳書上写	明治			冊１	延命寺
424	什物調	明治７年６月			冊１	西福寺
425	什物調	明治			冊１	長泉寺
426	分限帳	明治５年10月			冊１	常安寺（国府村）
427	戸籍書上帳	明治			冊１	新保の善性寺
428	戸籍帳	明治５年10月			冊１	長栄寺
429	戸籍書上帳	明治			冊１	宝積寺
430	寺録取調帳	明治７年６月			冊１	光岸寺
431	分限書上帳	明治５年10月			冊１	満願寺
432	戸籍書上帳	（明治５年10月）			冊１	正法寺
433	分限帳	明治５年10月			冊１	大福寺
434	戸籍書上帳	明治５年10月			冊１	西福寺
435	戸籍帳	明治５年10月			冊１	善門寺
436	分限書上帳	（明治５）10月			冊１	北原寺
437	戸籍帳	明治５年10月			冊１	光巌寺
438	戸籍書上帳	明治５年10月			冊１	神宮寺
439	届の形式				1	
440	分限書上帳	明治５年10月			冊１	長泉寺
441	不動院書上入	安政３年10月			14	川原湯
442	松前寺什物帳	慶応明治			18	
443	回　章	10月８日	光巌寺院代			
444	⧄珠院什物覚帳	寛延４年７月			冊１	
445	什物帳	享保14年６月			冊１	成就院
446	成就院什物覚帳	寛延２年３月			冊１	
447	不動院諸上早見	享保２年			冊１	
448	清光寺諸書上早見	享保９年より			冊１	
449	松前寺諸書上早見	⧄暦７年２月			冊１	
450	西光寺什物帳	安永９年９月			3	長底山華蔵院西光寺
451	寺格状	明治30年５月	天台座主大僧正村田寂順	清里村神宮寺		等外三等
452	寺格状	明治30年５月	天台座主大僧正村田寂順	長栄寺	1	群馬郡東村　等外三等
453	田畑証文	元禄11			7	正光院、光明院、成就院、放光院、千手院、⧄勝院、⧄城院
454	要心袋（金）				冊１	
455	幼々行事決凡例六則				冊１	
456	歎　文				10	No.211に同じ
457	歎　文				1	
458	神宮寺財産預約書	明治26年12月			1	
459	秋元山古今物語		権僧正廣順			
460	精難精覚				冊１	
461	欠　番					
462	補任状	元禄15年				甲州谷村泰安寺
463	官林地所立竹払下願	明治26年	北原寺	東京大林区署林務官志賀泰山	1	

光厳寺什宝目録

カード番号	種別（名称）	材質	法量	備考
1	経机	木	高 27.2 幅 93 奥行 39.3	梨地の高蒔絵、近江石山寺の月
2	前机	柴檀 黒檀	高 64 幅 122.5 奥行 45.3	唐獅子牡丹のすかし彫りがあり、正面と側面に秋元瓜
3	華瓶	青銅	高 29.5 径 26.3	蓮に青海波の紋様　秋元瓜
4	香炉	青銅	高 26 径 26	蓋が蓮の花をかたどっている　秋元瓜
5	燭台	青銅	高 50 径 17	秋元瓜
6	香合	柴檀 黒檀	高 5 幅 12	蓋が紫檀で身が黒檀
7	香炉		高 28 径 27.3	大隆院尊前　文化七庚午年七月九日　一対のもの
8	播	布	高 235 幅 59	秋元伊賀守喬房御寄進也　当寺七世亮歓法印代
9	宇賀神	木製	高 16.7 幅 10.3	
10	香時計	木製	高 55 幅 36.3 奥行 36.3	
11	多宝塔		高 60 幅 26	高77、幅38の厨子の中に納められている
12	妙法蓮華経		天 6 地 2.7	宥元禄二己巳年九月吉日　當山法門院住持兼作州本山寺三州眞福寺大僧都見海敬白
13	阿弥陀如来	鉄	高 106.5 膝 57	干時享保七季
14	太鼓	木製	幅 69 径 57.5	文化八年未歳七月九日
15	扁額		幅 180	江月院光厳寺　秋元興朝筆　6尺×9尺か
16	誕生図		縦 225.5 横 202.8	誕生佛彩画像一幅并外筥春慶塗　寛政三年四月八日　秋元山第十二尊従導順海　新寄附當院　図に霞兆斎守俊筆と鳥川辺印と藤原印
17	涅槃図		縦 232 横 205.5	
18	挟箱	木製	高 36 幅 73.5 奥行 44.5	住職の荷物を運んだ　笹龍胆の紋
19	風鐸	青銅	高 26 径 22	条痕がある　花びらの形　てつなし
20	茶釜	鉄 銅	高 18 径 26 高 26 径 27	表面に松の紋様　取っ手二ケ所 縁に蔓草のすかし彫り　三足　獅子頭状とって
21	手焙	木製 炉は銅	高 21 横 42	方形　黒漆にかたばみの金蒔絵　猫足　四隅に真鍮の飾り金具　秋元瓜　脚台も黒漆に金の蒔絵
22	文箱	木製	高 13.3 幅 32 奥行 42	蓋は金梨地に山水、松、桜の高蒔絵 身も四側面に蓋と同じ蒔絵
23	硯箱	木製	高 5.5 幅 22 奥行 24	蓋はかぶせ蓋　黒漆に南天と梅の蒔絵　裏に梅の花びら 身は黒漆　縁に銀 銅製の水さし、硯が入る
24	手拭掛	木製	高 57.5 幅 52	黒漆に銅の飾り金具　紋が18箇所入る 台は格狭間状
25	盥	木製	高 19.5 上幅 50.6 下幅 48.8 内法 14	三足　黒漆　周囲に唐草紋様　縁に金泥　たが状の突帯がある
26	扁額	木製	高 50 幅 99	黒漆　花弁状の縁取り　金箔残存　全体がお盆状 元禄拾五壬午歳四月吉辰　安藤出雲守源信富書之 歓喜院の文字が金泥で書かれる　文書№20と関連か
27	水差	木製	高 22.5 幅 22.6	黒漆に唐草の蒔絵　縁に金泥　蓋はおとし蓋 注ぎ口きも蓋
28	刀掛	木製	高 32 幅 45.5	黒漆に唐草の紋様　台は格狭間状
29	手拭掛	木製	高 55 上幅 65 下幅 54	黒漆に流水に菊花の蒔絵　脚部格狭間状　上縁、つなぎ目に銅製の飾り金具
30	手焙	木製	高 23 幅 48	黒漆に唐草紋様　金泥　四隅に飾り金具　脚は猫状　方形炉は銅製　径32　高12　紋なし
31	屏風		高 180 幅 52	六曲屏風　金地に墨絵　山水図山家に山寺　縁に飾り金具 花弁状と唐草紋様　縁は木に黒漆
32	燭台	銅製	高 105 台径 35	一対　受け皿の部分は鉄製

カード番号	種　別（名称）	材　質	法　量	備　考
33	打　敷	絹	縦　156 横　147	表は緑色で径30の立ち葵紋が下部に二つ並ぶ　裏は菱紋　為証　文政二巳卯歳　了智院殿照鑒珂琳　清心大姉冥福　秋七月今九日　本多氏
34	衣　桁	木　製	高　162.5 横　173	黒漆に唐草紋様　格狭間状の台　つなぎ目に飾り金具
35	狭野探幽画　観音		縦　118.5 横　54	三幅一対　秋元家遺品　探幽法印六十七歳筆
36	欠　番			
37	石灯籠	安山岩	高　170	寛政六年七月　山王大権現　御神前
38	秋元山寺中常念仏堂縁起		高　28.4	元禄十五龍集壬午歳四月吉祥日　秋元山第六尊　大僧都賢者法印法山考憲　信富家臣　服部源蔵藤原勝平　依君命行之握管　流れ軒菊川貞純彩本
39	天山画富士三保の松原図	紙　本 墨　画	高　133 幅　32.5	素描
40	恵比寿大黒墨絵	紙　本	高　103.5 幅　35.6	七十四翁一光斎　富山県全国美術博覧会一等入選画工とある
41	芦屋釜	鉄	高　22 径　20.3	輪口爪之風呂釜　口大サ四寸一歩　胴七寸　鐶付　鑑定書3通あり（未ノ五月六日法僑浄久）（六月廿五日御釜屋　大西五郎左工門）（寛文十三年六月上旬御釜屋山城）
42	（長松怪石）画軸		高　178 幅　96.6	明治時代　作者の柳所は高崎佐野に句碑のある柳所であろうか　松の大木の下に石あり　松の画が見事である
43	洞栄画出山釈迦図		高　115.5 幅　50	萩原洞栄
44	力田遺愛碑縮少拓		高　111 幅　30	六政六年癸未春三月に秋元山主方道廣順上木　東都向陵真遷賀瑛之縮字とある　この時に光厳寺本堂再建という。
45	木村観順師画像	絹　本	高　140 幅　48	大正期
46	茶　器			箱入りのセット　銀　木製　陶器のもの　葵、秋元瓜、鷹羽の紋
47	陶　器			赤絵皿（松に桜）有田皿か
48	三尊来迎図	絹　本	高　86.5 幅　41.5	鑑定書によれば春日絵所信春筆　鑑定書とあり鑑定師は山名貫峨酊春
49	鷹鳳筆三幅対	絹　本	高　119 幅　40.7	明治十九年九月秋元志朝公遺物として観順代受ける　三幅対中央桃を持つ人物と春、秋の景
50	十二天	紙　本	高　100 幅　41.5	閻魔天など十二本あり　延享二乙丑天十月　大正六年夏修繕
51	和　鏡		径　24	上野国群馬郡総社町光厳寺四世亮〻法印敬白　野田肥前守吉政　貞享五年〻辰歳五月吉日　卉〻掛山王御〻前
52	天台八祖大師画像	紙　本	高　120.5 幅　57.5	箱書に八祖大師　光厳寺什物とあり、伝教大師以下八名の画像である　焼けあとあり　江戸時代
53	〻珠絵		高　32.7 幅　48	箱書に晃覚曽住持晃日光山禅智院干時公寛大王命為鬼近因自画以賜之者也　享保乙卯春三月上旬　准三后一品公寛親王御真筆　當寺第十世晃覺寄附
54	山水画	紙　本	高　115 幅　46	掛軸　香草堂中とある　江戸時代
55	欠　番			
56	版画富士山神系御山絵図	紙　本	高　75 幅　27	川に御師長管拝書とあり印は菅原周直　富士山を中央に描き一部彩色　江戸時代
57	秋元済川院殿画像	絹　本	高　39 幅　22.5	箱書に御画像済川院様とある　済川院は秋元喬朝である　正徳四年八月十四日没
58	東照権現神号	紙　本	高　115 幅　40	南無東照大権現　籍書きに東照宮御神号青蓮院宮御筆　総社町光厳寺什物とあり、また當寺二世亮海求之とある
59	画　像	紙　本	高　107 幅　42	天海僧正と開山僧正であろうか　和歌あり　藤原廣賢作
60	蓮葩観音画像	紙　本		籍書に蓮葩観音　明人画明僧独湛讃　秋元山十二世亮覚代表具　画　讃に癸酉五月一日震旦沙門独湛讃とある　江戸時代
61	愛染明王画像	紙　本	高　106 幅　46	箱書に潅頂道具之内愛染明王絵像　光厳寺什物とある
62	慈覚大師画像	紙　本	高　95 幅　40	箱書に潅頂道具之内慈覚大師絵像　光厳寺什物とある
63	天台大師画像	紙　本	高　155.5 幅　57	享保四年巳亥初夏吉旦　第八世玄雄寄附之　光厳寺常什物
64	般若心経	紙　本	高　26 幅　43	巻子　普明院宮御筆　江戸時代
65	欠　番			
66	地蔵菩薩像	絹　本	高　92 幅　35	地蔵菩薩の線を無数の梵字で描いている珍しいもの　表に東叡山開山　贈慈眼大師御筆　壬生寺地蔵尊御写とあり箱表に地蔵尊一幅　慈眼大師御筆　下総国古河正定寺寄附　光厳寺十二世順海代とある銘文に左之通従鏡誉上人寄附令承知之者也　奉納壬生寺地蔵大士尊影者　南光坊天海大僧正御真筆也此度為遠光院殿（外法名二十四名略）　清和源氏根岸政久養子　根岸数助　政垣　宮寛政七卯天四月十六日　施主下総古河城下　證誠山宝地院正定寺十二世　鏡誉上人在眼
67－1	秋元（興朝公）寄進軸	紙　本	高　60 幅　21.5	拓影　秋元志朝遺物一箱（六軸）寄進のもの　群馬巡礼第二十番札所矢落観音上野国漆原村
67－2	秋元志朝寄進	紙　本		梵字の阿が金字で書かれ蓮台と円で囲まれる　光厳寺順海
67－3	十三仏（拓影）		高　74 幅　28	明治十七年新調とある
67－4	霊空大和尚自讃	絹　本	高　98.5 幅　45	講経念佛期楽　邦終日孜々夜　熱宿唸心〻性　信吊忘真箇人右中芬陀利　霊空大和尚自讃　延享三丙寅秋有門智幽拝録
67－5	天台布教誡銘	紙	高　102 幅　42.7	僧正要順書　秋元山什物　萬延元年七月上旬

カード番号	種　別（名称）	材　質	法　量	備　考
67－6	普賢菩薩像	絹　本	高　109 幅　50	象四頭に乗る仏　江戸時代
68	挽　歌	紙　本	高　28.2	並河五市郎の挽歌を並河永が編纂したもの　享保元丙甲八月十四日編　全員二十名の寄書
69	三幅対	絹　本	高１ｍほど 幅40㎝余	⧄欄　慈童　金鶏　寛政酉辰年　享和元年辛年酉歳上毛光巌寺順海
70	傅教大師真影	紙　本 印　刷	高　102 幅　42	天台座主孝永謹書　東京浅草寺頒布会昭和十二年三月十七日彩色されている
71	布袋画像	絹　本	高　102.5 幅　46.5	箱書に袋布絵　武州河越侍従喬朝高公自画　宝永六己丑三月法山拝授焉　秋元山什物とある
72	二十五菩薩来迎図	紙　本	高　144 幅　58.6	箱書に来迎阿弥陀佛　二十五菩薩附　秋元山常什物　当所鍛冶町　施主持木又兵衛とある　箱裏に音天保四癸巳歳仲冬当寺十三世方道広順代とある
73　74	欠　番			
75	寿老人画像	紙　本	高　146 幅　74.8	狩野銅春義信画　山王勸理院僧正尭範ヨリ顕順江贈到來　秋元山光巌寺常什物　光巌寺十一世顕純
76	不動尊像	絹　本	高　90.5 幅　27.5	智證大師御筆　光巌寺什物　江戸時代　立像　彩色
77	書　軸	紙	高　68.7 幅　26	慈眼大師御筆　南光東然三所大権現　山門村領三国信灯大僧正天海　江戸時代
78	山王大権現像	絹　本	高　88 幅　42.5	日光山唯心院要順寄附　江戸時代
79	松に岩の図	絹　本	高　198 幅　124	普昌唐寅画
80	世界興亡図			教材　大正四年
81	十王画像	紙　本	高　130 幅　85	嘉永七年甲寅年二月五日　粟島町沢田藤吉
82	傅教大師画像			70に同じ
83	山水画	絹　本	高　180 幅　97	松見潤水天然調抱得琴来不用禅　癸卯小春写　呉門敬⧄強信彩色あり
84	十王画像	紙　本		81と対で同型　享保四巳亥二月五日　寿貞妙中大姉　紋学道法居士　三界万霊六親眷属七世父母為自幸也
85	千手観音画像	紙　本	高　28 幅　20	千手観音従導順海拝授
86	傅教大師御児之御影之由申伝	絹　本	高　72 幅　29.5	野州前大聖寺盛典所護持　天明年中　従現住大聖寺披嘱之光巌寺順海
87	龍尾板不動尊	絹　本 版　画	高　105 幅　38	龍尾板不動尊心院什物圓順代　江戸時代
88	上州群馬郡岩屋縁起	書　軸	高　30	
89	準⧄観音画像	紙　本	高　49.5 幅　32	梵字　像の下に異国風の人物、家などあり　江戸時代
90	権僧正亮海画像	紙　本	高　87 幅　41.5	箱書に当院第二世　権僧正亮海像　光巌寺什物　また当限二世権僧正亮海像　秋元但馬安朝家臣高山伝右衛門息　兼渋川真光寺、泰安寺とある　泰安寺は甲州谷村の菩提寺
91	豊蔵坊筆		高　30.8	名ハ信海又孝雄又ハ玉層翁ト号シ豊蔵坊ト云　松花堂ノ高弟又狂歌名人ニテ寛永頃ノ人也　箱書に桜日尚伝筆とある
92	阿弥陀如来画像	絹　本	高　75.6 幅　35.6	箱書に真向弥陀図像　恵心僧都御自筆一幅　また弥陀尊絵像一幅　施主東国分塚田長左衛門とある
93	大乗妙典		高　26	法華八軸　並製
94	大乗妙典		高　24	法華八軸　上製本
95	安藤丹州侯墨跡詩歌	書　軸	高　28.8	江戸時代
96	傅教大師童子画像	絹　本	高　72 幅　30	伝教大師御児之御影之由申伝　野州前大聖寺盛典所護持　天明年中従現住大聖寺披属之　光巌寺順海
97	秋元泰朝法名	紙　本		照真院道哲泰安居士霊位とあり泰朝の法名を書いた軸 従五位下秋元但馬守藤原朝臣泰朝公天正八庚辰年於武蔵国深谷郷降誕也　歳霜六十有三寛永十九壬午年武陽江戸而薨也 即奉葬甲陽郡内郷泰安寺焉也　奥東叡慈眼大師志異他敬白下筆被書泰朝公之遺号矣経年塵煤汚之故今家臣某表之以奉備於廟前者也　寛文八⧄申年五月二十三日　高山甚五兵衛朝繁敬白山形侯秋元但馬守従四位藤原永朝公之御筆　文化四丁卯年八
98	永朝公画　日出松	絹　本	高　43 幅　65	月十八日所賜也　干音御歳七十歳　了智院君之所口　了智院君御廟参之節御産物トシテ賜　広順江　命奉屋醫順謹書 青不動　箱書に潅頂道具之内　不動尊像とある
99	不動明王画像	絹　本	高　129 82.5	天文九年庚子二月十八日　権大僧都法印擬講良然とある 天文九庚子年二月十八日徳蔵寺十二世　権大僧都法印擬講良然寄附　上野国群馬郡総社徳蔵寺常什物　本尊彩色并表具修補 施主粟島市兵衛　干時延享三年四月
100	本尊釈迦年尼佛図 十六善神画像	絹　本	高　139 幅　87.5	文政二巳卯歳仲冬　十三世広順代施財主日高村清光寺　恵順仏像　表具師　京三条柳馬場東工入南側岡本治右工門
101	傅教大師図	紙　本	高　127.8 幅　56.6	光岸寺常什物　第八世玄雄寄附之　享保四巳亥初夏吉旦
102	歴代国号歌	拓　本	高　131 幅　46.7	寛政四年六月　上州秋元山主順海上石
103	不動尊弘法大師御筆	拓　本	高　45 幅　22.8	（順海）代
104	仏印仏足図	拓　本	高　133 幅　29.2	寛政丁巳中秋上毛秋元山主順海
105	摸刻力田遺愛碑拓本	紙　本	高　114 幅　27.7	文政六年癸未春三月　東都向陵真遷賀瑛之縮字　秋元山主方道廣順　上木

カード番号	種　別（名称）	材　質	法　量	備　考
106	薬師如来画像	紙　本	高　82 幅　32.5	箱書は74であるば画と一致しない　江戸期
107	十二神将画像	紙　本	高　74 幅　32	箱書は74であるが画と一致しない　江戸期
108	不動明王画像	紙　本	高　86 幅　38	江戸期
109	欠　番			
110	童子像	紙　本	高　65 幅　29	江戸期彩色
111	欠　番			
112－1	打敷　獅子図		縦　60 横　93	朱の地に南天と獅子を刺繍で表す　情容院殿御坐物　秋元山十四世亮覚代
112－2	打敷　秋元紋図		縦　90 横　90	朱の地に金糸で秋元家紋を三箇所表す　家紋は径23　裏は白で墨染の秋元家紋 大壇　秋元家ヨリ　為本源院殿御菩提　御納物　秋元山常什物　天保元乙未口九月
112－3	打敷　百花青海波文		縦　161 横　168	五布つなぎ　表はしぼりと刺繍によって梅、菊、橘を表現する　裏はもみ裏地　文久元辛酉年　為圓ロ院殿御菩提　御納物　大壇　秋元家ヨリ二枚之内
112－4	打敷　松竹梅鶴亀文		縦　156 横　178	表は松竹梅鶴亀と宝づくしの図柄を刺繍、梅枝はしぼりで表現　裏は朱無地で墨書あり　打敷　長さ六尺幅六尺　金　鶴亀、松竹縫　為圓浄院殿御菩提也　安永九庚子年十一月　秋元摂津守永朝公寄附　當寺十二世順海代
112－5	覆布　龍鳳凰文		縦　51 横　72	２点　表は龍、鳳凰、菊を表す　裏は白麻無地　①文久三癸亥年八月御寄附　②文久三癸亥年八月　済川院殿百五十回御忌之節御寄付　錦織
112－6	打敷　秋元家紋		縦　150 横　136	表地錦織唐草文　染ぬきで家紋を中央に表す　家紋径83.5　裏地は麻白無地　秋元家御奥向ヨリ為長寿院殿御菩提御納打敷一枚　文政七年甲申歳四月　秋元山光厳寺什物
112－7	打敷　松竹梅		縦　103 横　97	112－３と対　表地は松、竹、梅を配す　裏地は朱無地、文久元辛酉年　為圓ロ院殿御菩提　大壇秋元家ヨリ二枚之内
112－8	打敷　文字散梅花文		縦　171.5 横　174	梅亀鶴が金糸、琴花帯で朱糸で刺繍　裏は朱無地　安永四乙未年　化城院寄附之霊前　秋元山常什物　第十二世順海代
113	御朱印箱	木　製	縦　40.5 横　72 高　35	外箱と中のかぶせ蓋と内箱からなる　外と中は春慶塗　内箱は黒漆　葵の紋が七つ書かれる　外箱に金具と取手がつく内箱は左右二場所に分かれる　内箱蓋に上州社光厳寺と葵
114	御朱印箱	木　製		113と同型　内箱が三段になっている　内箱蓋に十六弁の菊と上州総社光厳寺
115	三　宝	木　製	縦　30.5 横　30.5 高　28	漆塗
116	欠　番			
117	三　宝			115と同型　漆塗
118	三　宝			115と同型のものと一回り小さいもの
119	御　膳		縦　33.5 横　35.5 高　21	漆塗
120	三　宝		縦　21.5 横　21.5 高　22.3	漆塗
121	御　膳			119より一回り大きいものと一回り小さいもの
122	煙草盆		縦　42.5 横　25 高　7.5	漆塗
123	御　膳	木　製	縦　39 横　39 高　22	漆塗
124	湯桶など			桶、水差し、雀の紋入り
125	御　膳		縦　37 横　35.5 高　22	二個　猫足膳　唐草紋様
126	欠　番			
127	重箱など			重箱、水差し、茶碗、湯飲み、酒器
128	御廣蓋	木　製	縦　54 横　57 高　9	木瓜の紋　裏は梨地　黒漆に金泥
129	台	木　製	縦　60 横　35.5 高　13.5	唐草紋　花瓶并ロロ宮入　右弐口為　圓浄院殿御遺物　安永九庚子年十二月　光厳寺　前絵　茶屋并口祖花瓶為圓浄院殿御遺物志賜光厳寺順海所也　順海代寄附當院為常什物
130	金光明最勝王経	紙　本		文政二巳卯歳初秋　秋元山十三世方道廣川需之
131	妙法蓮華経	紙　本		天保二辛卯歳十一月　東国分村　施主　住屋武兵衛
132	妙法蓮華経	紙　本		為明徳院ロ養義寂居士　性心院繁屋妙慶大姉　佛里也　文政二己卯歳九日　施主　山王村　戸丸善右衛門
133	版　木	木　製		三点　一点は力田遺愛碑文のもの
134	御膳組	木　製		長寿院様納御膳組　唐草に橘
135	御湯桶鎹	木　製		雀紋
136	槍の穂先	鉄　製	長　36.1	藤原國助の銘
137	阿婆縛抄	紙　本		約百冊　享保十四年
138	秘密儀軌	紙　本		約七十冊　天明元辛丑歳仲冬穀旦　上野国群馬郡総社光厳寺十二世従導順海新調

光巌寺の建築

はじめに

天正時代の初め(1570年代)惣社城主秋元長朝公は、元惣社の徳蔵寺を菩提寺と定めた。しかしその後、30年を経て菩提寺を惣社町へ移転し、新たに光巌寺を建立した。寛永３年(1626)５月、徳川２代将軍秀忠公より御朱印地30石を賜り、また慶安２年(1649)８月には３代将軍家光公より御朱印地16石を徳蔵寺分として賜り、合計46石を光巌寺において、明治維新に至るまで支配してきたという由緒ある寺院である。なお、境内の東南に接して宝塔山古墳があり、その墳頂に秋元家歴代の墓を設けている。

宗派は、比叡山延暦寺末伝教大師の流れを汲む天台宗であり、寺の正式名称を「秋元山江月院光巌寺」と呼称する。江月院は長朝公の法号から取り、光巌寺の光巌は長朝公の母上の法号光巌院殿から取ったものである。

正保年間(1644～1648)に火災にあい、開山以来の諸堂宇及び什器類をことごとく焼失してしまった。その後立派に再建したが、文化７年(1810)年雷火による出火のため、長屋門と土蔵を残してことごとく灰燼に帰したという。

なお、翌年の文化８年２月に三度目の工事を起こし、文政４年(1821)にはほぼ現存の建物が建ち並んでいたようである。ここでは、境内に現存する主要な建物を取り上げ、建造年代の古い順に建築史の側面から解説を行うものである。

１．境内配置

当寺の境内は、南北に長いほぼ長方形をしている。この広い敷地の中に、多くの堂宇を配している。

ホンドウ(文政４年建造)を、境内の中央やや北西寄りに、東を向けて建っている。ホンドウの北に、オタマヤ(秋元家の位牌堂で文化９年に建造)を、大谷石の塀で囲んだ中に、東を向けて建っている。オタマヤの正面東側に、タイシドウ(大師堂)と、ヤクシドウ(薬師堂)を、南を向けて並べて建っている。タイシドウは、宝塔山古墳の東側にあったアミダドウを大正５年に移築したものである。ヤクシドウは、蛇穴山古墳の山頂にあったものを、大正時代に移築したという。

ホンドウ玄関の真東に、ロウモンがある。この門は、「赤門」とも呼び、元日・節分・４月８日・お盆の４回に限って開いている。ロウモンの東に、サンドウが続いている。このサンドウ中程に、以前ナカモンがあった。

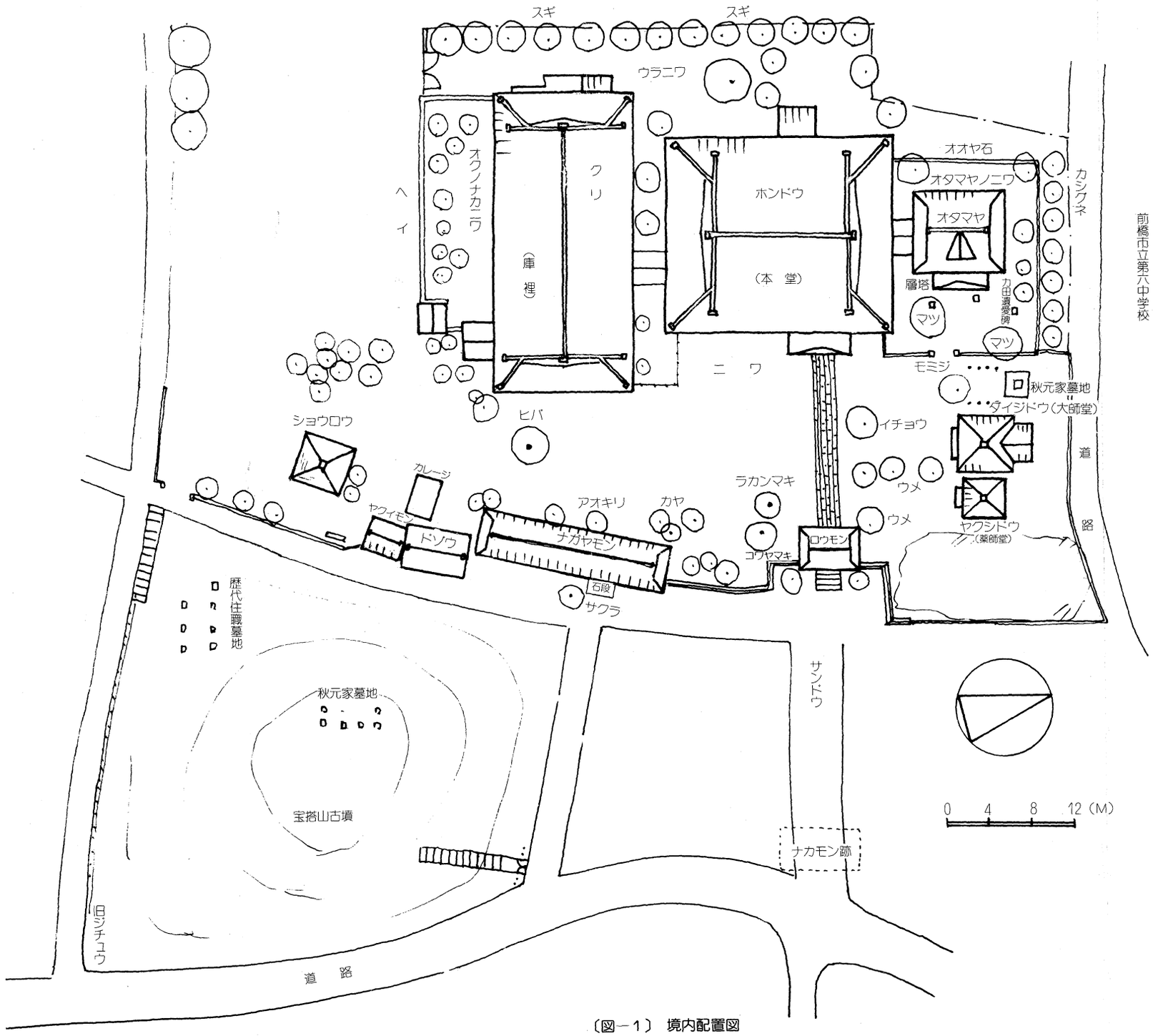
ホンドウの南に、妻入りのクリ(文化10年建造)を置いている。クリの正面東に、ナガヤモン(天明５年建造)を配している。この門はロウモンと違って、日常の通行に使ったものである。

ナガヤモンの南に、道に沿って、ドゾウ(土蔵)を置いている。ドゾウの南に、ヤクイモン(薬医門)を配している。ヤクイモンは、市重要文化財になっており、シタモンとも呼んでいる。この門は、アミダドウの境内に入る門として使用したもので、昭和11年に現在地に移築したものである。

ヤクイモンの南西には、ショウロウ(鐘楼)を建っている。このショウロウは、宝塔山の東南で、ジチュウと呼ばれる所にあったものを、昭和48年に移築したものである。

石造物を見ると、オタマヤの塀内で、入口より正面向って、北に力田遺愛碑(県指定文化財)、南に東覚寺層塔(市指定文化財)を置いている。オタマヤの東で、タイシドウとの間に、東京多摩墓地より、昭和35年に移した秋元家石塔を、数基の石造物とともに安置している。

墓地を見ると、２ケ所ある。１ケ所は、宝塔山古墳にあって、山頂への道中程に、住職の歴代墓


スギ
スギ
ウラニワ
オクノナカニワ
ヘイ
クリ
(庫裡)
ホンドウ
(本 堂)
オオヤ石
オタマヤノニワ
オタマヤ
カシグネ
層塔
力田遺愛碑
マツ
マツ
モミジ
ニ ワ
秋元家墓地
ダイジドウ(大師堂)
ヒバ
ショウロウ
イチョウ
道
カレージ
ヤクイモン
ドソウ
アオキリ
カヤ
ラカンマキ
ウメ
ウメ
ヤクシドウ
(薬師堂)
路
ナガヤモン
ロウモン
コウヤマキ
石段
サクラ
歴代住職墓地
秋元家墓地
宝塔山古墳
サンモン
0 4 8 12 (M)
ナカモン跡
旧ジチュウ
道 路

〔図－1〕 境内配置図

地を、南向きに安置している。山頂には、秋元家の歴代墓地があり、12基の石塔が東を向いて立っている。境内から離れて、南に檀家の墓地がある。

樹木を見ると、各堂宇の間に庭を設けて、樹木を植えている。オタマヤの庭には、入口付近に黒松を２本植えている。ホンドウとナカノマとの間に、ナカニワを設けている。クリの南に、オクノナカニワを設け、沢山の樹木を植えている。オタマヤの北側に、カシを列状に植え、立派なカシグネを築いている。ホンドウとクリの西側には、杉を列状に植えている。

ホンドウの東を見ると、ラカンマキ・コウヤマキを植え、クリの東にイトヒバを植えている。３本とも、市の保存樹に指定されている古木である。この他イチョウやモミジが目につき、ロウモンの北で、ヤクシドウの東には、竹林が広がっていた。

（群馬県立前橋工業高校建築科　教諭　池田　修）

２．建築解説

（イ）　長屋門の建築

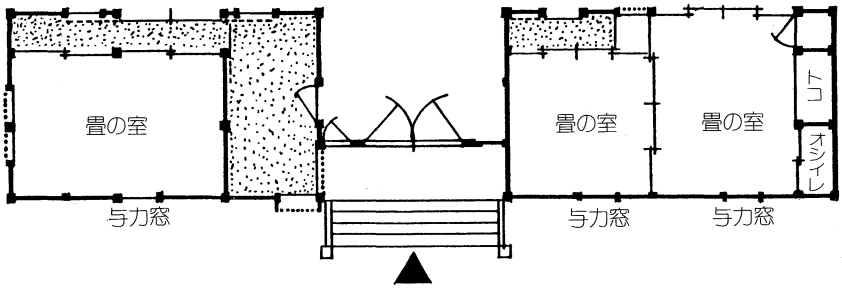
当長屋門は間口（南北）11間半、奥行き（東西）２間半の規模である。建築の形式は、入り母屋造り瓦葺き平入りとし、建造当初から瓦葺きにしていたものと推察する。建造当初の平面（復元平面）は、図－２のように中央部を通路とし、その左右に部屋を設けていた。通路の北側は２室続きの畳敷きの室とし、トコやオシイレまで備えている。

また、通路の南側は12畳の室を設け、その西側と北側に土間をめぐらしている。そして通路に接した土間は、門扉の外側に格子窓を設け、門扉の内側からは内開きの板戸によって直接出入りもできるようになっており、門の外側の人物と直接応対できるようになっている。このようなことから考えると当長屋門の場合、常時番人が詰めて寺に出入りする人物を監視していたようである。恐らく江戸時代は、上述のような監視体制をとり、門番人をこの長屋門に居住させていたものと推察する。

幸にも当長屋門は、建造時の棟札を残していた。それに墨書されていた内容を掲げると次のようである。

「新造長屋門　東西弐間半　南北拾壱間半　功成矣　天明五年乙巳歳五月初七日　秋元山第十二世竪者法印順海建之　大工棟梁馬場左近藤原福充　馬場助之進藤原福方　石工信州高遠領小原染右衛門　木挽青梨邑助七・義八・源治郎・音八　その他門人大工として十八人の名を記載する」

ここで特に注目すべきは、規模についての記載であり、現存する長屋門の規模と全く同一である。このことから当長屋門は、天明５年（1785）に竣工した遺構と見てよいものと考えている。なお当遺構は、建造当初から外壁を土蔵造りにし、屋根を瓦葺きにしていたため文化７年、落雷によって出火した火災の際に、焼失を免れることができたものと推察する。



〔図－２〕　長屋門復元平面図

(ロ)　鐘　楼

当鐘楼は、当初宝塔山古墳の東南に存在した。それを現在の所に移したのは昭和48年のことであり、総ての部材を解体して移築したものという。なお、当鐘楼の梵鐘は太平洋戦争の末期、昭和19年に供出し存在しなかった。それを新しく鋳造し、移築竣工した当鐘楼に吊して、昭和48年３月10日落慶法要を営んだ。

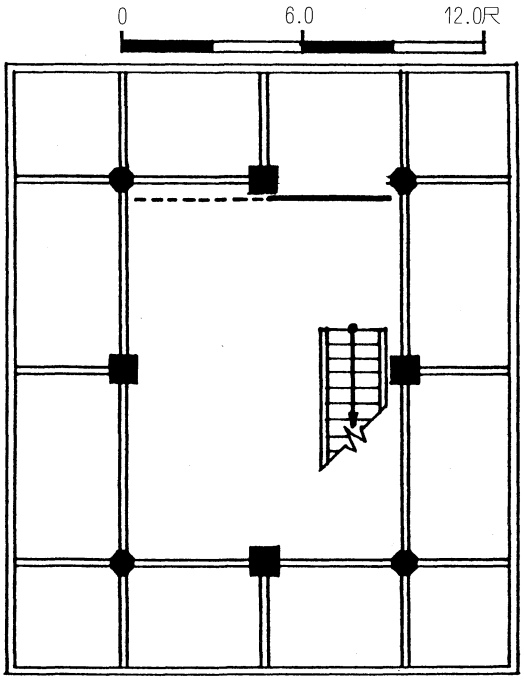
当鐘楼の規模は、まず袴腰の裾の長さで見ると南北20.10尺、東西17.00尺である。また、柱間で見ると南北12.50尺、東西9.45尺の規模であり、一階及び二階の平面は図－３に示した通りである。

建築の細部様式を見ると、基礎は自然石の切り石を据え、一階の四隅の柱を通し柱とし、一階の場合を八角柱に二階の柱を円柱にしている。柱上の組み物は、軒まわりを平三斗組みとし、中備えを蟇股にしている。軒は一軒疎垂木とし、妻飾りを虹梁大瓶束にしている。二階の場合、円柱の芯より床の先端まで3.40尺を張り出して、四方に高欄をめぐらしている。なお、天井は格天井とし、当初の屋根は瓦葺きであった。しかし、昭和48年の移築以後銅板一文字葺きにしている。

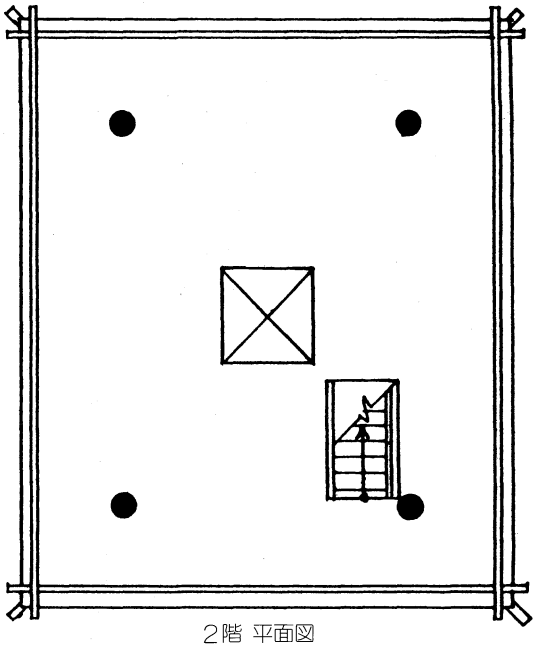
当鐘楼も建造時の棟札を残しており、その内容は以下の通りである。

「卍　奉再建鐘楼壱宇　高二丈三尺四寸　横九尺　竪弐間　如来證涅槃　永断於生死若有至心聴　常得無上楽　明和九歳宿壬辰十月一日彿生日　竪者法印順海　願主安蓮者心誉善了　深誉覚心　大工棟梁　関口又右衛門　敬　磯田市左衛門安裕　谷田権之丞豊屋　錺師　奈良庄治郎藤原口宗　仲人　曽我金七郎祐里　村岡勘之丞旨喜　安藤幸七豊峯　戸谷又右衛門道久」

現存する当鐘楼の縦及び横の規模を見ると、棟札に記された規模と同一であること、及び建築の示す各種の特徴などから見て、当鐘楼は棟札の通り明和９年(1772)に建造した遺構と見て良いものと推察する。



１階 平面図



２階 平面図

〔図－３〕 鐘 楼 復 元 平 面 図

（ハ） 秋元家位牌堂（秋元家御廟所・写真－１・写真－２）

当遺構は梁間２間半、桁行き３間半の規模である。建築の形式は、入り母屋造りの屋根前面の中程に大形の千鳥破風を付け、その先端に唐破風の向拝を設けたもので、権現造りにおける拝殿の部分を堂としたものである。

当遺構の細部様式を見ると、基礎は自然石の切り石とし、外壁下（桁下）に土台を入れている。軸部の柱はすべて円柱を用い、外壁と共に朱塗りとしている。柱上の組物は外部軒まわりを出組みとし、内部を平三斗組みにしている。中備えを見ると外部軒まわりに蟇股を置き、内部は正面のみ蟇股とし、他は省略している。軒は二軒繁垂木とし、妻飾りを虹梁大瓶束にしている。縁は四方にめぐらしているが、高欄を設けていない。

内部は畳敷きの一室とし、正面に唐様の一続きになった長い須彌壇を設け、この上に秋元家歴代の御位牌を安置している。そして、特に注目すべきことは、室内の天井を一枚の鏡天井とし、そこに見事な竜の墨絵を描いていることである。この竜は俗に「八方睨みの竜」といい、室内のどこから見ても見る人の方を、睨むように描かれているのだという。この墨絵には「狩野式部卿融川法眼寛信書」の署名と、彼の朱印を残している。

ところで当位牌堂は、建造時の棟札を残しており、その内容は以下のようである。

表　面

「奉再建御位牌堂　梁間二半　桁行三間半　羽州山形城主秋元氏従五位下守左衛門佐藤原朝臣久朝　文化九壬申歳五月九日　秋元山光巌寺十三世法印広順代　惣奉行大沼角右衛門藤原忠賢　奉行相田平助菅原正恭　小奉行天野助七藤原秀親　棟梁渥美善四郎藤原正甫　棟梁上毛群馬郡新井村阿佐見出羽藤原光包　棟梁同惣社町蟹谷儀七藤原直好」

裏　面

「新井善兵衛藤原政意謹書之」

この棟札に記された規模と、現存する御位牌堂の規模とが一致すること、及び建築の示す各種の特徴等から見て、当位牌堂は文化９年(1812)に竣工したものと判断する。なお、当遺構はその後の屋根替え棟札を残しており、その内容を掲げると次のようである。

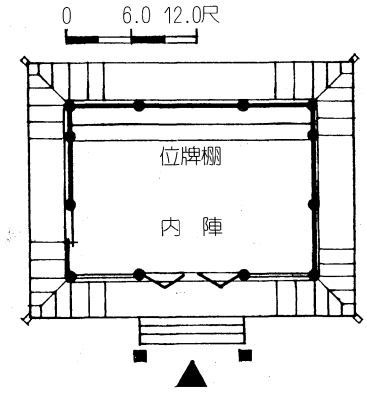
表　面

「奉一宇葺替檜皮大工藤原家次　一天泰平国家安全御武運長久日月清明御寺内繁昌信濃国佐久郡小諸町柿司棟梁小山宇吉智賢　同国松本町山田銀之助時則」

裏　面

「千時天保六乙未歳八月十五日　同国小諸町小山井兵衛　同　佐藤米三郎　同　土屋喜代作」

この屋根替え棟札によって、建造当初における当遺構の屋根は、檜皮葺きであったことが明らかになった。その後は瓦葺きになり、さらに昭和59年に現在の銅版一文字葺きに改めたものである。



〔図－４〕 秋元家位牌堂復元平面図

（二）　鐘　楼　門(写真－３)

東西に走る参道を西に向かって進むと、朱塗りの重層の門に突き当たる。この門は本堂玄関の真東に位置し、俗称「赤門」という。しかし、二階に上がって見ると、中央部に太い梁を架けこれに、かって鐘を吊した大きな鉤を残している。従って、当門の正式な呼称は「鐘楼門」と称すべきものである。

建築の形式は、入り母屋造りの前後に唐破風を付けた重層の平入り門である。規模は間口(桁行)15.72尺、奥行き(梁間)7.75尺である。地元の人々には、かって開かずの門といわれ、秋元公の墓参の時以外は閉ざされていた。しかし現在では、元日・節分・４月８日の花祭り及びお盆の年４回に限り、開く習わしになっている。

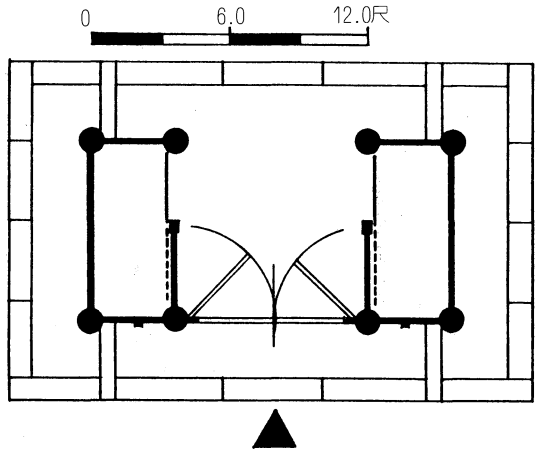
建築の細部様式を見ると、基礎は自然石の切り石を用い、中央の４本の柱下には礎盤を置く。すべての柱を円柱とし、壁は柱間に厚板を落とし込む方式で、柱・壁共すべて朱塗りとしている。柱上の組物を見ると、まず柱頭に台輪を置き、外部軒まわりを出三斗組とし、内部を平三斗組にしている。

軒は二軒とし、垂木を繁垂木と疎(まばら)垂木の中間に配置し、妻飾りを虹梁大瓶束としている。中央の通路部分の上部は、縦横６枚合計36枚の小組格天井とし、格間に花鳥の彩色画を描いている。彫刻を見ると、唐破風の下に豪華な高肉透かし彫り彫刻を嵌め、建物に華麗さを添えている。彫刻の具体的なデザインは、参道側を牡丹とし、境内側に波と雲及び一対の鶴を彫り出したもので、それぞれ極彩色を施し、殿様の通る門としての風格を醸し出している。

また、表側・裏側とも二階中央間に、美しい曲線で縁取りした火頭窓を開き、その左右の窓も上部に火頭曲線を採用している。また、明治の頃の版画や昭和初期頃の写真等を見ると、一階部分に黄檗宗(禅宗の一派)の山門において象徴的に採用された袴腰を付けていた。袴腰は恐らく、風雨にさらされるために腐り易いので、後に除去してしまったのであろう。試みに外側の柱を見ると、袴腰の付いた位置に痕跡を残しており、現在では埋め木をして体裁を整えている。

このように、当遺構の採用している袴腰・礎盤・火頭窓・台輪・唐破風・大瓶束等のデザインは、いずれも唐様建築を特徴付ける意匠である。従って、当遺構は天台宗寺院の鐘楼門であるにもかかわらず、なぜか唐様を強く表現した意匠になっているといえる。

ところで当鐘楼門は、建造年代を示す資料を全く残していない。そこで、建築の示す各種の特徴等から推察すれば、秋元家の位牌堂と同時期に竣工したものと見ておけば良いものと考えている。



〔図－５〕　鐘楼門復元平面図

（ホ）　庫　裡（写真－４）

当庫裡は間口（桁行き）17.0間、梁間（奥行き）7.0間の規模であり、当初屋根を重厚な草葺き入り母屋造りにしていた（写真－４）。しかし、昭和38年に屋根を瓦葺きに改造し、現在に至っているものである。なお、当初から妻入りしているのは、大変珍しいことである。

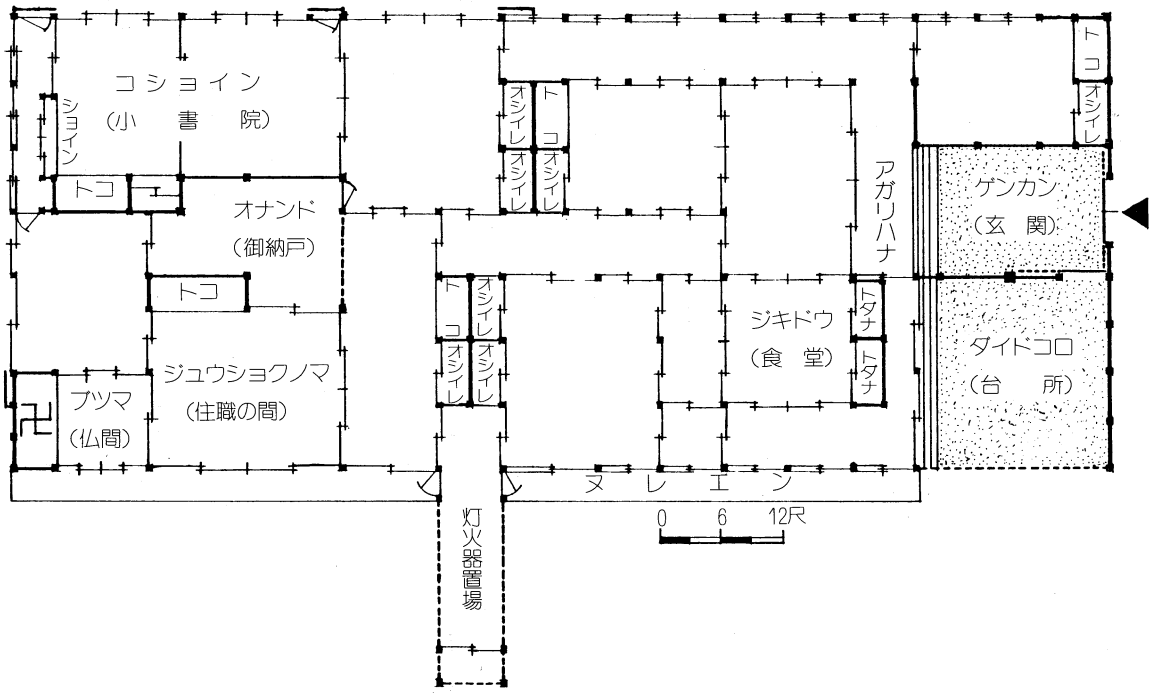
当遺構の復元平面を示すと、図－６のようである。大規模なため複雑な間取りをしており、一番奥（西側）の北側を最も上等な続き座敷とし、武家の好んだ座敷飾りであるトコ・タナ・ショインを備えている。ここは主に、秋元公が御成りになった時に、使用した部屋であった。オナンドは住職家族の寝室であり、その南の室をジュウショクノマ（住職の間）と称して、住職の執務室にしていた。

なお、当庫裡で変わっているのは、表側中央部に幅一間長さ三間半の細長い空間を張り出し、ここにたくさんのランプを置き、ランプ部屋と称していたという。過去に二度も大きな火災にあっているので、失火の恐れある部分を主屋から特に突き出して造ったものであろう。

当庫裡は、建造時の棟札を残しており、その内容は次ぎのようである。

「卍　再建庫裡一宇　梁間七間桁行十七間　檀中奉加　干時文化十癸酉歳十一月吉辰当寺十三世方等広順代　棟梁馬場祐之進　孫兵衛　勇吉」

この棟札の示す梁間及び桁行きの規模と、現存する庫裡の規模とが一致すること、及び建築の示す各種の特徴等から見て、当庫裡は文化十年（1813）に竣工したものと見てよいものと考えている。



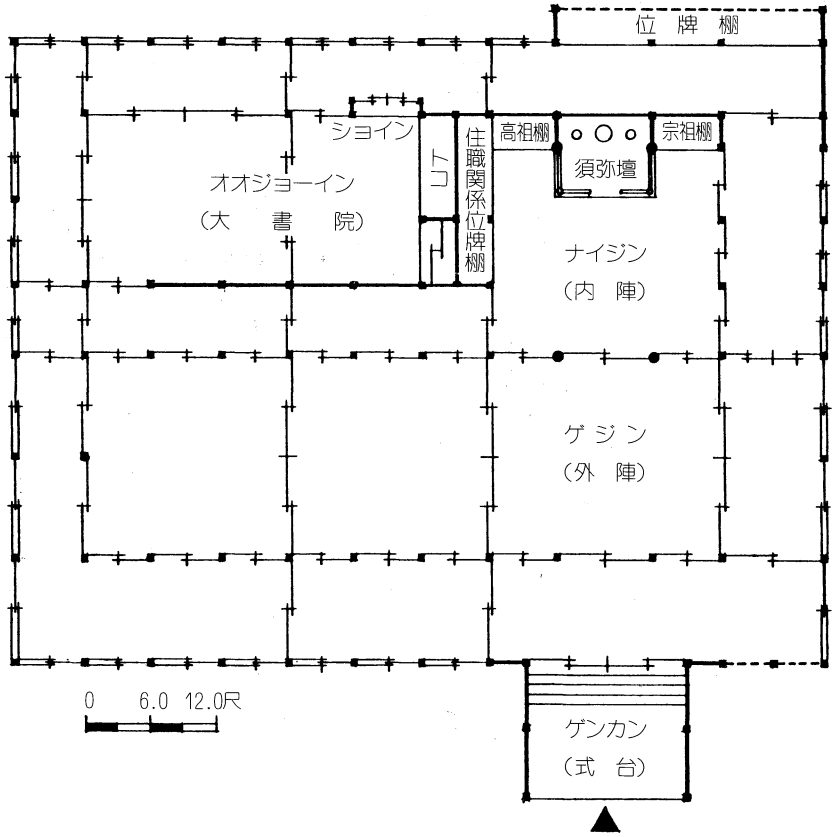
〔図－６〕庫　裡　復　元　平　面　図

（へ）　本　堂(写真－５、写真－６)

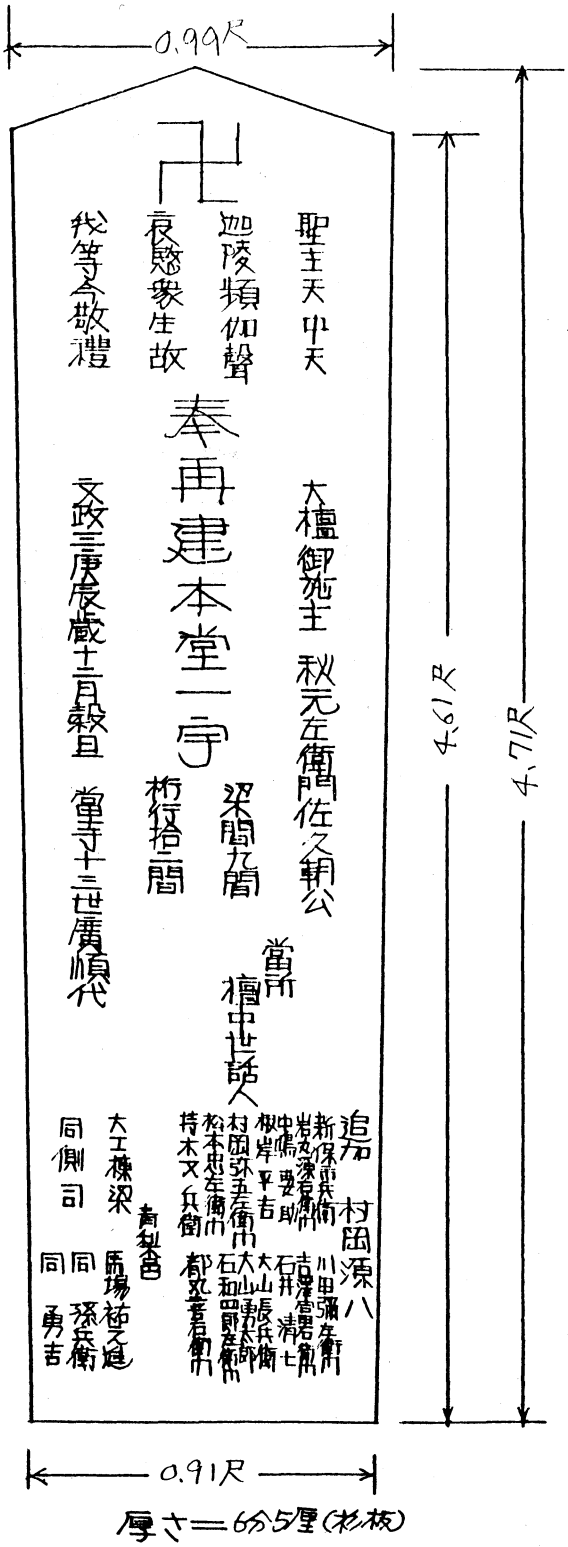
当本堂は梁間九間、桁行き十二間の規模であり、正面を東向きにしている。建築の形式は寄せ棟造り平入りとし、屋根を草葺きにしていた(写真－５)。しかし、昭和28年に小屋組みを大改造し、現在のような入り母屋造り瓦葺きに改めたものという(写真－６)。平面は図－７のようであり、ゲンカンを中心より北側にずらしている。このように、本堂の玄関を中心よりずらしているのは、他に見ることのできない珍しい例である。その大きな理由を考えると、当寺が殿様(秋元公)の菩提寺であり、しかも殿様の墓参時に休息所に当てたオオジョイン(大書院)を重視して、本堂の中に設けたことによるものであろうことを、平面に見る各室の配置から推察することができる。

当本堂の示す建築の細部様式を見ると、基礎は現在コンクリートにしている。しかし当初は、自然石の切り石基礎であったものと推察する。軸部は角柱とし、柱上に組み物を用いていない。屋根は入り母屋造り瓦葺きとし、妻部の破風を大きく開き、ここに三重虹梁束立ての妻飾りを用いている。しかし、これは当初からのものでなく、昭和28年に改造したものである。

なお当本堂は、図－８に示すような建造時の棟札を残していた。この棟札の裏側には雷除けとして「雷除御名号」の御札を貼っている。そして、この棟札に記載してある梁間及び桁行きの規模と、現存本堂の規模とが一致すること及び、建築に見る各種の特徴等から推察して、当本堂は棟札の示す通り、文政３年(1820)12月に上棟したものと見て良いであろう。一般に棟札は、上棟時に上げるものであるため、竣工した年は文政４年(1821)と見ておけば妥当であろう。



〔図－7〕本堂復元平面図



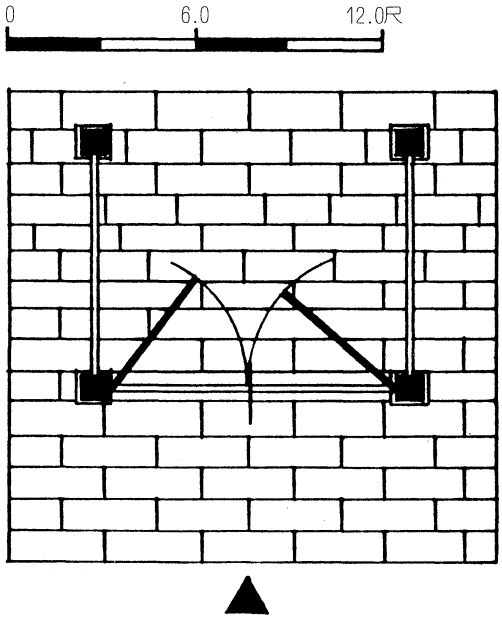
厚さ＝6分5厘（杉板）

〔図―8〕 本堂の棟札

（ト） 薬 医 門

当薬医門は間口10.0尺、奥行き6.95尺の規模であり、その平面を示すと図－９のようである。当初は、宝塔山古墳のすぐ東に存在した念仏堂(阿弥陀堂)の境内に入る門としていた。それを解体し、昭和11年に現在の場所に移築したものであると伝ている。なお、念仏堂の門にしていた時は、屋根を板葺きにしていた。しかし、現在の所に移築してからは、鉄板一文字葺きにしている。

当薬医門の構成部材を見ると、古材と後補材とを混用しており、小屋組みを両側柱上と中央部の三個所に配した男梁上に置いている。そして、左右の男梁上に載っている板蟇股は、風上の程度等から後補のものと推察する。この板蟇股を見ると、両面にそれぞれ三巴・五三の桐・立ち沢瀉・剣片喰の紋所を浮き彫りしている。なお、左右の本柱の脚部間には、かって蹴放しを入れていたほぞ穴を残している。蹴放しがあると、自動車の往来には不便になるので、取り除いてしまったものであろう。



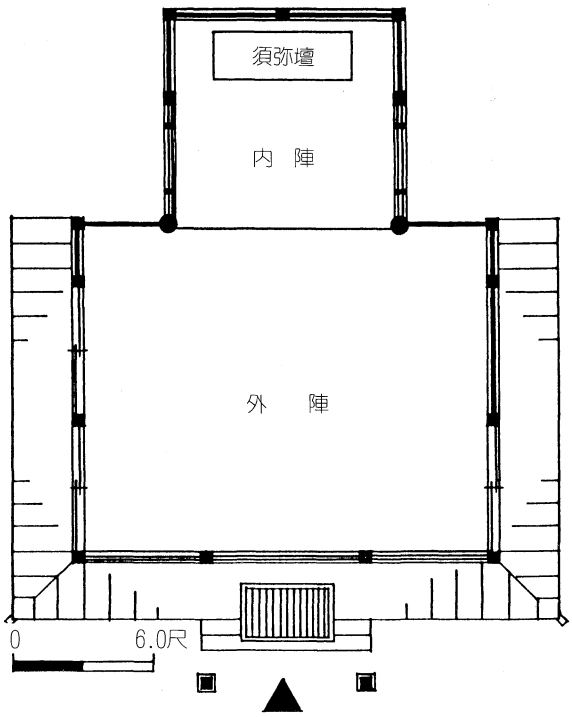
〔図－９〕 薬医門復元平面図

（チ） 大 師 堂

当大師堂は間口(桁行き)三間、奥行き(梁間)二間半の裏側中央部に、幅一間半奥行き一間半の突き出し部を設け、ここに須彌壇を安置するものである(図－10)。なお、正面には幅一間の向拝をつけており、屋根を寄せ棟造り瓦葺きにしている。しかし、建物を詳細に調べてみると、当初は裏側の突き出し部がなく、しかもを移築したものであることも判明した。そして、田中耕順住職が保存している旧念仏堂(阿弥陀堂とも言った)の写真を見せていただくと、規模・デザインとも旧念仏堂に全く類似していることから、旧念仏堂を移築して大師堂に転用したものと推察する。

移築した時期については、明治34年に描かれたと思われる境内鳥瞰図の版画に描いていないことから、まず明治34年の時には現在地に存在しなかったことが明らかである。そして、移築竣工時に新しく造って掲げたと思われる「奉納　元三大師　大正六年一月吉日」の額を残していることから、大正五年頃に移築したものであろうと推察する。

なお、当遺構の当初の建造年代は幕末頃と推察でき、移築前は草葺き屋根であった。



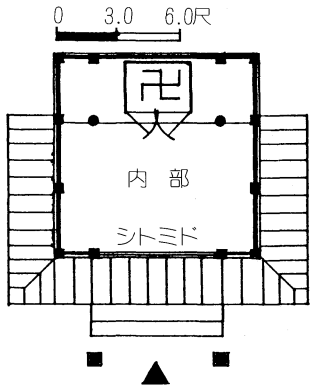
〔図—10〕 大師堂復元平面図

(リ) 薬 師 堂

当薬師堂は間口(桁行き)一間半、奥行き(梁間)一間半の規模であり、屋根を方形造り瓦葺きとし、正面に幅一間の向拝を付けたものである。内部は、正面に造り付けの須彌壇を置き、その前面を3畳の畳敷きの空間にしたものである。

当遺構も、前述の明治34年の版画に描いていないことから、その頃には現在の所に存在しなかったものである。しかし、建物そのものは幕末頃のものと推察できることから、大師堂と同様に大正時代の初め頃、旧念仏堂の存在した宝塔山古墳の東側にあった小堂宇を移築したものであろうと推察している。

(国立豊田工業高等専門学校 教授 桑 原 稔)



〔図—11〕 薬師堂復元平面図

写真1　▲秋元家御廟所

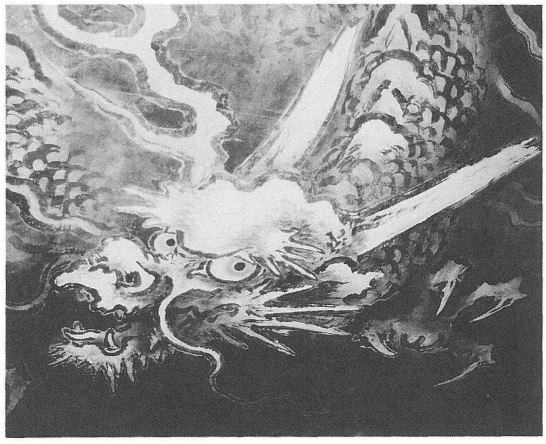


写真2　▲御廟所天井画 八方にらみの龍

写真3　▲鐘楼門

写真4　▲元の庫裡

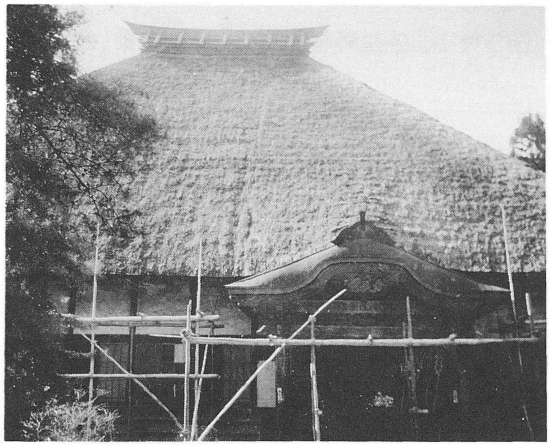


写真5　▲元の本堂

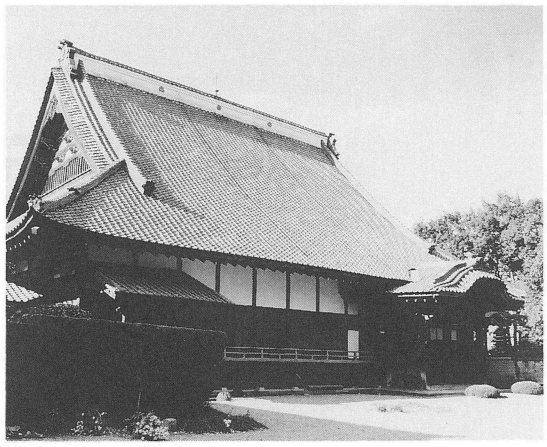
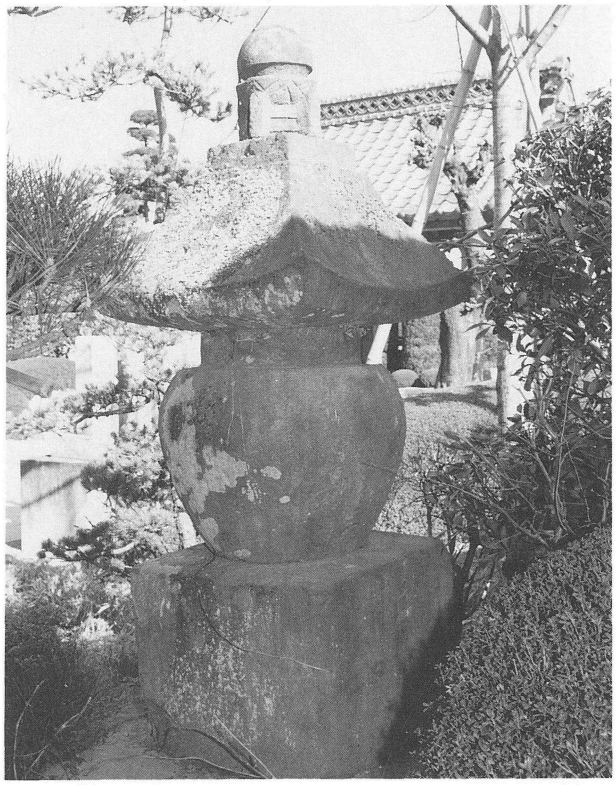


写真6　▲現在の本堂

II 新指定文化財紹介



名　　称　**大福寺の宝塔**

・区　分　前橋市指定重要文化財

・記　号　重第57号

・所在地　前橋市鳥羽町717　大福寺

・所有者　大福寺

・指定年月日平成２年４月10日

〈概　要〉

これは安山岩でできた壺型塔身の宝塔で、相輪部は別物である。基礎の一面に行書体で銘文が彫られ、生前供養である逆修のために建てたことがわかる。応永二十五年（1418）の紀年銘がある。塔身のくびれ部が長いことと、屋蓋の軒切り口の幅がほぼ同じ点にこの時代の特徴が示されている。

〔銘文〕

右志者一結諸衆
参為或先忌口滅
或各々逆修者也
酬願七分全徳出離
衆生法界平等敬白
応永廿五年戊寅二月十五日

保存もよく、年号があることと、造立の主旨がわかる点が貴重である。ほぼ完形で整った形をしており、この時期の宝塔の変化として塔身が短く太くなる様子が現われており、紀年銘とともに石造物研究の基準となるものである。

〔法量〕

総高146.0

基礎高47.0　幅58.0

塔身部高45.0上部径47.0下部径37.0くびれ部高10.0　深さ8.0　径37.0　最大幅は下から30の所で65.0　屋蓋高35.0　軒幅70.0

名　　称　**小島田の阿弥陀如来坐像**

・区　　分　前橋市指定重要文化財

・記号番号　重第58号

・所 在 地　前橋市小島田町504

・所 有 者

・指定年月日平成２年４月10日

〈概　要〉

これは安山岩でできた阿弥陀如来の坐像である。舟型光背ともに一石。像は通肩の厚肉彫りで、頭部は猪首状をしている。膝張りは小さく、衣の前が下がっている。箱型の蓮座には蓮弁が線で刻まれている。地元では薬師と呼んでいるが像様と印からは阿弥陀であると判断した。

光背には次のような銘文が刻まれている。

〔銘文〕　敬白　念仏修逆　十人　延徳五年丑癸　十月廿三日

この光背の銘文から、生前供養である逆修のために建てられたことが分かる。

また、光背背面の紀年銘に延徳五年（1493）とあるが、延徳は四年７月19日に明応と改元されている。

保存も良く、年号があることから、室町時代初期の石仏研究の基準になるものである。

この時期を境に、石質が凝灰岩から安山岩に変わり、首が伸びてくるといった変化がある。

同時期の市重文、元景寺の石造地蔵菩薩坐像と比べて、70年ほど下がったもので、衣紋が左右対称になり、蓮弁が線刻になり象徴的になっている。

なお、この石仏が立っているのは、上毛古墳総覧記載の木瀬村第７号墳である。この古墳は径二十尺（約６ｍ）高さ六尺（約1.8ｍ）の小円墳で鏡の出土が記録されている。墳頂部へは北から石段が付けられている。

〔法量〕

総高　62.5　　幅　37.5

像高　37.5　　幅27.0

文化財保護課事業

1．保護管理運営事業

本市に存在する豊かな文化財を保護し、活用するために、平成元年度においては、次のような事業を実施いたしました。

(1) 国有文化財管理

国指定史跡の（総社）二子山古墳と（天川）二子山古墳は、それぞれ地元の山田勝二さんと御供徳雄さんを国有文化財監視人にお願いし日常管理を実施しました。

また、除草作業や清掃作業等については、総社史跡愛好会と市連合青年団の方々の協力を得て実施いたしました。

(2) 国・県・市指定文化財管理

市内には、国指定の文化財が21件、県指定のものが37件、市指定のものが82件あり合計で140件の指定文化財があります。

各文化財には、標語と説明板を設置しており、これらの史跡を訪ねる人々の利便を図っております。

尚、区分については下記の通りです。

①指定区分別文化財

区分＼種別	重要文化財	史跡	天然記念物	無形文化財	民俗文化財	(旧)重要美術品	合計
国指定	3	11	1	0	0	6	21
県指定	32	4	0	0	1	0	37
市指定	57	15	0	7	3	0	82
合計	92	30	1	7	4	6	140

②時代区分別文化財

時代別＼指定別	国指定	県指定	市指定	合計	
				件数	割合(%)
(天然)	1	0	0	1	0.7
原始	1	0	0	1	0.7
古代	14	2	15	31	22.1
中世	3	19	25	47	33.6
近世	2	13	37	52	37.2
近代	0	3	5	8	5.7
合計	21	37	82	140	100.0

（平成２年４月10日）

(3) 史跡の除草・清掃事業

市内各地区に存在する史跡において、市が直接管理すべきものについて、地元自治会やシルバー人材センター、業者に除草・清掃作業を委託し史跡が美しく保たれるように作業を実施しました。

実施箇所等は、下記の表の通りです。

番号	物件名	区分	所在地	面積
1	亀塚山古墳	市指定史跡	山王町一丁目	2,484㎡
2	金冠塚古墳	市指定史跡	山王町一丁目	1,552㎡
3	今井神社古墳	市指定史跡	今井町	3,000㎡
4	車橋門跡	市指定史跡	大手町二丁目	400㎡
5	酒井氏歴代墓地	市指定史跡	紅雲町二丁目	3,800㎡
6	天神山古墳	県指定史跡	広瀬町二丁目	730㎡
7	八幡山古墳	国指定史跡	朝倉町四丁目	11,200㎡
8	前二子古墳	国指定史跡	西大室町	7,700㎡
9	中二子古墳	国指定史跡	東大室町	9,400㎡
10	後二子古墳	国指定史跡	西大室町	3,700㎡
11	蛇穴山古墳	国指定史跡	総社町総社	1,793㎡
12	宝塔山古墳	国指定史跡	総社町総社	2,916㎡
13	女堀	国指定史跡	東大室町・飯土井町	13,900㎡

(4) 文化財パトロール

市内を５地区に分け、各地区に１名の文化財保護指導員を委嘱し、指定文化財を中心に文化財パトロールを実施しました。

文化財パトロールの結果は、月に１～２回程度文化財保護課に報告していただき、管理していく上での情報を伝えていただきました。そのため、緊急事態に対処したりすることができました。

各地区の文化財保護指導員は、下記の表の通りです。

地　区	氏　名	住　所	電　話
中　　央	福　嶋　守　次		
総社・元総社	新　木　一郎治		
広瀬・山王	関　根　辰　雄		
芳　　賀	佐　藤　忠　重		
城　　南	森　村　伊勢雄		

（平成２年４月１日現在）

(5) 前橋市蚕糸記念館の整備及び管理

この建物は明治45年国立原蚕種製造所として建てられたもので、本市に残る明治時代の貴重な建物であり、昭和56年県指定重要文化財に指定されました。

翌57年蚕糸記念館として一般公開され、ここには養蚕、製糸等関係の品々が展示されており、毎年多くの入館者でにぎわっています。

２．整備事業

(1)　総社歴史散歩道整備事業

昭和62年度より開始された「総社歴史散歩道整備」も３年が過ぎようとしています。この３か年では、主な事業内容は既存の道路や地元自治会長さん、設置箇所の地主さんという多くの方々のご協力により「案内表示板」の設置ということで事業を実施してきました。

平成元年度は、案内表示設置の最終年度ということで、前橋駅から敷島公園（ばら園）までの範囲において、文化財が見学できるようなコースを設定し案内表示板を設置しました。内訳は、道標７基、路面プレート16基で合計23基です。昭和62年度から合計すると総計85基になります。

この作業の終了によりＪＲ群馬総社駅・新前橋駅・前橋駅という市の重要な交通の起点からの文化財の見学が可能となりました。つまり、市街地と総社地区が結ばれ、総社地区から市街地へ、また市街地から総社地区へという文化財を見学しながら歩くことができるようになりました。

また、これと同時に総社地区の町並調査も実施されました。担当は観光資源保護財団（愛称ナショナルトラスト）です。この調査目的は、現在の総社・元総社地区に存在する文化財をいかにすれば活用できるのかということであります。

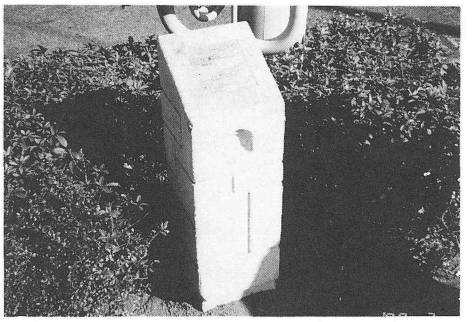
次に、平成２年度の整備の主な内容ですが、よりこの地区の文化財を理解し、見学していただくためのハンド・ブックの作成、駐輪場の設置、酒井家歴代墓地の整備等が計画されております。また、先述の観光資源保護財団の調査報告書が提出されるとともに、調査報告会が現地において、11月18日(日)開催される予定になっております。

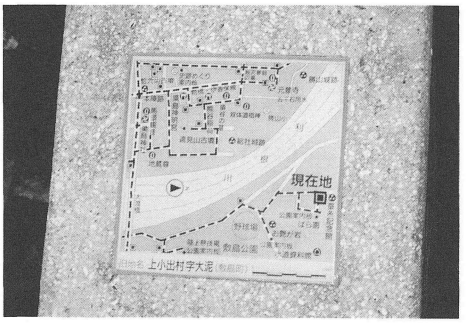
この調査報告書等を元にし、地元の方々のご協力を得ながら、総社地区に存在する地域性・歴史環境等を失わないように、また訪れた人々が地区の歴史環境や地域の特色等を体感できるような整備を実施していきたいと考えております。

このような整備の実施により、平成２年度完成したグリーンドーム前橋や日本庭園等の大きな市のコンベンション施設に極めて接近しているため前橋の歴史と文化を知ってもらうための貴重なヒンターランド（後背地）としての機能を担う地区となりうるのです。

事業実施計画経過表

	62年度	63　年　度	平成元年度	平成２年度
案内表示	30基	32基	23基	
説　明　板				説明板図版原稿作成
散歩マップ		散歩マップ		
ハンドブック				ハンドブック
計	30基	32基	23基	





⑵　標識・説明板の設置

平成元年度においては、次のように指定文化財史跡を中心とした標識・説明板の設置を実施しました。

＊標識……７基

①石造地蔵菩薩坐像…市指定重要文化財
昭和63年８月３日指定

②円満寺薬師如来坐像一体…
市指定重要文化財
昭和60年３月27日指定

③経塚古墳…市指定史跡
昭和48年９月24日指定

④産泰神社太々神楽…市指定重要無形文化財
昭和48年９月24日指定

⑤総社神社太々神楽…市指定重要無形文化財
昭和48年９月24日指定

⑥東福寺鰐口…市指定重要文化財
昭和48年９月24日指定

⑦極楽寺五輪塔…無指定

＊説明板……２基

①前橋天神山古墳…県指定史跡
昭和45年12月22日指定

②泉沢の獅子舞…市指定重要無形文化財
昭和49年８月26日指定

③稲荷藤節…市指定重要無形文化財
昭和49年８月26日指定
（但し、②と③は一括で設置）

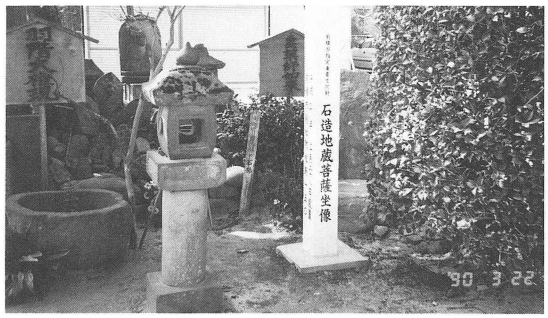
＊塗り替え等の補修

（標識）

①産泰神社八稜鏡…市指定重要文化財
昭和49年８月26日指定

②泉沢の獅子舞…市指定重要無形文化財
昭和49年８月26日指定

③稲荷藤節…市指定重要無形文化財
昭和49年８月26日指定



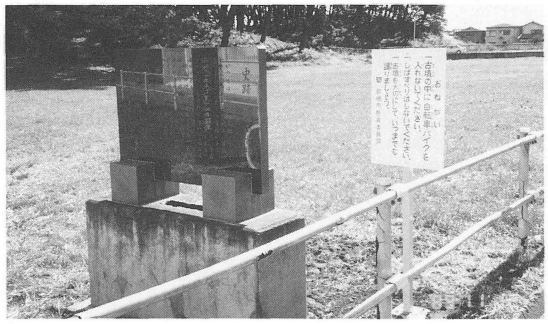
八幡山古墳現況平面図　S＝1：1000

(3) 八幡山古墳修復工事

前橋市朝倉町にある八幡山古墳は、数年前より墳丘部の破損が目立ち、放置して置くと風雨や人害によりますます破損する恐れがありました。2年計画で墳丘保護及び古墳の現状保存に務めるため平成元年度においては、破損の最も激しい部分について盛り土・植栽（リュウノヒゲ）を実施しました。

(4) 文化財補修管理工事

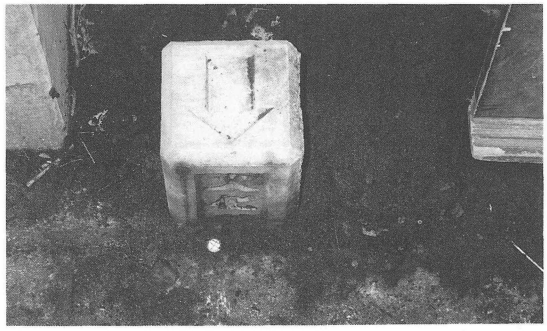
八幡山古墳修復工事に伴い、今後古墳を訪れる方々及び地域の人達に古墳を大切にし、守って行っていただくように古墳の入口等3か所に注意看板を設置しました。



(5) 史跡境界杭設置委託工事

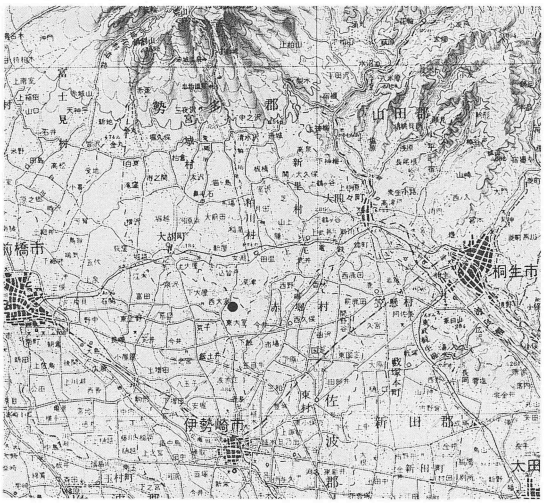
昭和62年度における会計検査時等において、国有地である古墳の史跡指定範囲内の明確化等の指摘を受けています。そのため、史跡地の境を明確にするために境界杭を設置しました。

平成元年度においては、八幡山古墳（史跡指定範囲杭設置）と後二子古墳（史跡境界杭設置）において実施しました。



⑹　大室公園史跡整備委員会

大室古墳群周辺



大室公園建設予定地内には、国指定史跡である前・中・後二子古墳が存在しています。このような国指定史跡を整備しようとする場合、史跡の価値及び位置付けを明確に定め、その整備の基本方針、整備後の管理計画等を定めた「史跡整備の基本構想」を作成し、国（文化庁）の承認を得なければなりません。その後、基本構想を生かした公園整備・史跡の整備の基本計画、設計、実施計画を立て、整備に取りかかるものであります。

平成元年度においては、平成２年２月16日に大室公園史跡整備委員会が国・県・市の関係者や学識経験者により組織されました。平成２年度は、「史跡整備の基本構想」策定に向けて委員会が開催される計画です。

＊目的

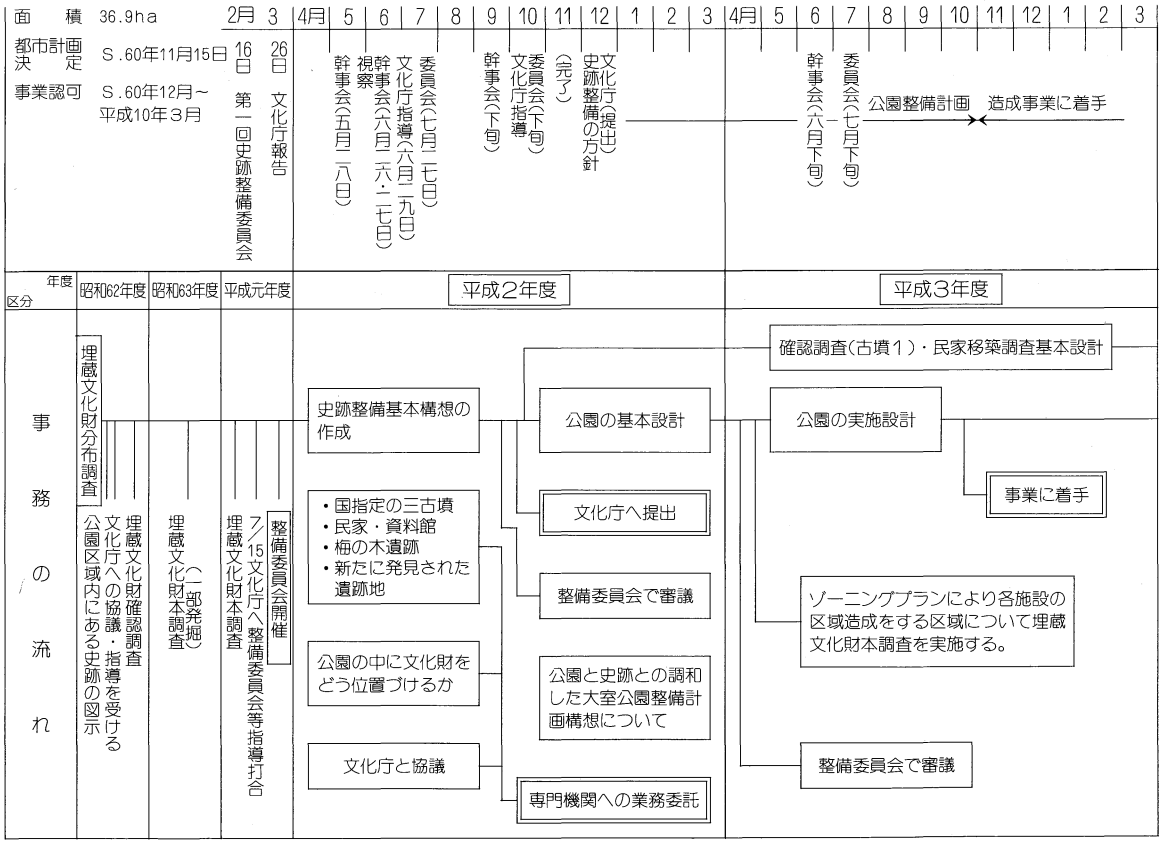
①史跡（前・中・後二子古墳）の歴史的価値、整備の基本方針、整備後の管理と活用方法を検討し、整備の計画を定める。

②大室公園整備については、公園緑地部においても、史跡を生かした整備を実施するに当たり、史跡整備の基本構想の策定後、史跡整備の基本構想を生かした公園整備の基本構想・基本設計を作成し、史跡と公園施設の調和の取れた整備をしていく上に、史跡整備の基本構想の策定を必要としている。

史跡整備委員会名簿（平成２年度）

	氏　名	職　　名	勤　務　先	勤　務　地	電話番号
指　導	加藤　允彦	文化庁文化財保護部記念物課 文化財調査官	文化庁	東京都千代田区霞ケ関3-2-2	(03)581-4211 (内線)2880
顧　問	岡本　信正	前橋市教育委員会教育長	前橋市教育委員会	前橋市大手町2-12-1	0272(24)1111(代表)
委員長	近藤　義雄	前橋市文化財調査委員		群馬町金古2123-2	0273(73)1366
副委員長	白石太一郎	国立歴史民俗博物館教授（古墳）	国立歴史民俗博物館	千葉県佐倉市城内町117	0434(86)0123
委　員	進士五十八	東京農業大学教授（造園学）	東京農業大学	東京都世田谷区桜丘1-1-1	03(420)2131
	中沢　右吾	前橋市文化財調査委員		前橋市東大室町672-1	0272(68)2544
	伊東　　功	群馬県都市施設課長	群馬県土木部	前橋市大手町1-1-1	0272(23)1111(代表)
	梅沢　重昭	群馬県教育委員会文化財保護課長	群馬県教育委員会	前橋市大手町1-1-1	0272(23)1111(代表)
	関口　和雄	前橋市総務部長	前橋市総務部	前橋市大手町2-12-1	0272(24)1111(代表)
	大島　昭一	前橋市公園緑地部長	前橋市公園緑地部	前橋市大手町2-12-1	0272(24)1111(代表)
	遠藤　次也	前橋市教育委員会管理部長	前橋市教育委員会	前橋市大手町2-12-1	0272(24)1111(代表)
	竹　　茂夫	前橋市教育委員会指導部長	前橋市教育委員会	前橋市大手町2-12-1	0272(24)1111(代表)
幹事長	松島　栄治	前橋市文化財調査委員	前橋第二高等学校	前橋市文京町2-20-3	0272(21)3073
副幹事長	井上　唯雄	勢多郡東村立呉小学校長	勢多郡東村立呉小学校	勢多郡東村大字小中798	0277(97)2541
幹　事	丸山　知良	前橋市文化財調査委員		東京都渋谷区富ケ谷2-11-17	03(466)8273
	阿久津宗二	県立歴史博物館副館長	県立歴史博物館	高崎市岩鼻町239	0273(46)5522(代表)
	桑原　　稔	国立豊田工業高等専門学校教授(建築学)	国立豊田工業高等専門学校	愛知県豊田市栄生町2-1	0565(32)3463(代表)
	中沢　正之	群馬県都市施設課公園緑地係長	群馬県土木部	前橋市大手町1-1-1	0272(23)1111(代表)
	秋池　　武	群馬県教育委員会文化財保護課第二係長	群馬県教育委員会	前橋市大手町1-1-1	0272(23)1111(代表)
	西田　健彦	群馬県教育委員会文化財保護課主任	群馬県教育委員会	前橋市大手町1-1-1	0272(23)1111(代表)
	桜場　一寿	群馬県立桐生女子高等学校教諭	群馬県立桐生女子高等学校	桐生市梅田町1-185-1	0277(32)2182
	立川　宏二	前橋市総務部財政課長	前橋市総務部	前橋市大手町2-12-1	0272(24)1111(代表)
	都丸荘太郎	前橋市都市計画部街路課長	前橋市都市計画部	前橋市大手町2-12-1	0272(24)1111(代表)
	平田　次男	前橋市公園緑地部公園緑地課長	前橋市公園緑地部	前橋市大手町2-12-1	0272(24)1111(代表)
	吉沢　節生	前橋市公園緑地部公園管理課長	前橋市公園緑地部	前橋市大手町2-12-1	0272(24)1111(代表)
	渡辺　勝利	前橋市教育委員会総務課長	前橋市教育委員会	前橋市大手町2-12-1	0272(24)1111(代表)
	福田　紀雄	前橋市教育委員会文化財保護課長	前橋市教育委員会	前橋市上泉町664-4	0272(31)9531(代表)

平成２年度の取り組み



3．普 及 事 業

⑴　『関東の華・前橋城』復元図作成

前橋には、かつて関東の四名城の一つといわれた前橋城（古くは厩橋城）がありました。しかし、現在その面影をとどめる城跡が少ししか残っていないため、城の範囲などはっきりしませんでした。そこで本年度、前橋城の範囲とそれに続く城下町の様子を、現況図に落とした前橋城前橋町復元図『関東の華・前橋城』を作成しました。Ａ１判の大きさで、両面カラー印刷、2000部作成し、市民の啓発を図るため、希望者に無償配布しました。

『関東の華・前橋城』復元図

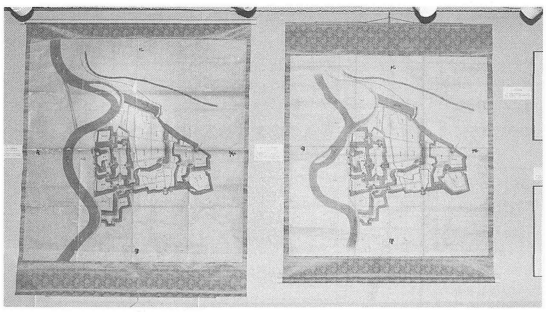
⑵　第15回前橋市文化財展

○日　時　平成元年８月３日㈭～８月27日㈰

○会　場　前橋市立図書館　２階　展示室

○テーマ　『関東の華・前橋城』

元年度の文化財展は、現存する前橋城絵図20点余りを年代順に展示し、城の変遷を紹介しました。期間中多くの見学者が訪れ、好評でした。



前橋城絵図

⑶　教村開発事業

昨年度からの継続事業であるスライド教材『関東の華・前橋城』を完成しました。本年度作成したスライドは15点でしたが、昨年度作成済の25点と合わせて、スライド解説書を添付して市内小中学校、公民館等へ配布しました。今後学校教育・社会教育の場で、身近な地域教材として大いに活用されることを期待します。

⑷　第17回前橋市郷土芸能大会

○日　時　平成元年11月11日㈯　午後２時～４時

○会　場　前橋市民文化会館　小ホール

本年度も、市内に伝わる郷土芸能を保護・育成し、広く市民に公開することにより市民文化の向上を図ることを目的に前橋市郷土芸能大会が開かれました。本年度は、事前の広報・宣伝活動を活発に行ったためか、例年にも増して多勢の市民がつめかけました。出演した五団体は、どの団体もこの日のためにと練習を重ね、すばらしい演技・演奏を披露し観衆を魅了しました。

○出演団体

・大峯神社太々神楽　保存会　（嶺　　町）
・赤烏神社祭太鼓　芳楽会　（古 市 町）
・東善の獅子舞　保存会　（東 善 町）
・箱田のかつぎ地蔵　保存会　（東箱田･後家町）
・いなば祭囃子　保存会　（元総社町）

いなば祭囃子

⑸　「前橋の文化財」増刷

昨年度刊行した市内の指定文化財紹介本「前橋の文化財」が好評のうちに完売したので、本年度新たに1000部増刷しました。平成元年７月５日より頒布を始めましたが、購入希望者が多く、本年度分750部は完売し、文化財保護思想の高揚が図れました。

「前橋の文化財」販売風景

⑹　第８回文化財普及講座

本年度の文化財普及講座は、「近世の前橋」というテーマで、関東の華・前橋城をメインに江戸時代の前橋の姿を平易に解説していただきました。会場は、昨年と同様前橋市中央公民館第３学習室でしたが、各回とも平均して60名もの受講生があり、講師の先生のわかりやすい話に熱心に耳を傾けていました。また、本年度は講座の中に第17回前橋市郷土芸能大会を取り入れ、併せて見学していただきました。開催した講座名と講師の先生等は、次のとおりです。

講座名と講師

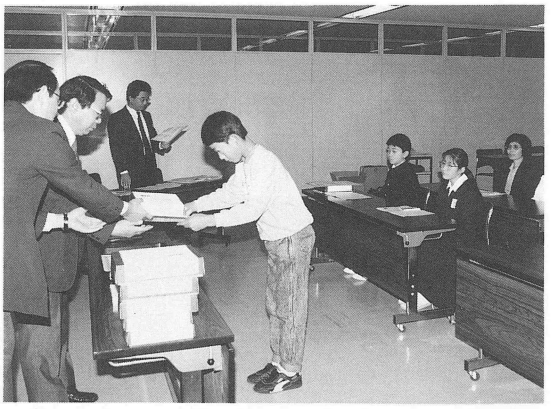
回	日　時	講　座　名	講　　師
1	11月４日(土)	近世の石造物	阿久津　宗　二氏 （群馬県立歴史博物館副館長）
2	11月11日(土)	第17回前橋市郷土芸能大会	（前橋市民文化会館・小ホール）
3	11月18日(土)	関東の華・前橋城	佐　藤　寅　雄氏 （前・前橋市立図書館長）
4	11月25日(土)	前橋町の形成	丸　山　知　良氏 （前橋市文化財調査委員）
5	12月２日(土)	利根のかけ橋	加　藤　鶴　男氏 （前橋市中央公民館長）

講座名「前橋町の形成」

⑺　文化財愛護作品コンクール

次代を担う児童・生徒に文化財愛護の精神を培おうと、夏休みを利用して文化財愛護に関するポスターと標語を募集しました。市内の小・中学校27校から144点もの優秀な作品があつまりました。10月６日に行われた前橋市文化財調査委員等による厳正な審査の結果、30名が入賞しました。主な受賞者は、次のとおりです。

○市長賞　桂萱中 1年 井岡俊明	○市長賞　広瀬中 2年 金井久美
○教育長賞　敷島小 4年 今井景子 第六中 3年 田中敏恵	○教育長賞　桂萱小 6年 鈴木秀明 第一中 2年 早川高弘
○優秀賞　清里小 5年 仙場淳彦 桂萱中 2年 瀬下陽子	○優秀賞　中央小 6年 佐藤貴子 大利根小 6年 只木純子



平成元年11月７日第４回文化財愛護作品コンクール表彰式

⑻　文化財めぐりパンフレット増刷

本年度も市内を５コースに分けた文化財めぐりのパンフレットを増刷しました。増刷部数は各コ

ース２千部、計１万部でした。

○旧沼田街道沿いの文化財めぐり

○芳賀・桂萱の文化財めぐり

○朝倉・広瀬の文化財めぐり

○元総社・総社の文化財めぐり

○城南地区の文化財めぐり

(9) 史跡・文化財めぐり

本年度も30団体1,500人もの史跡・文化財めぐりの依頼がありました。本年度の特色としては、生涯学習事業が各地域に浸透したため、年配の方の申し込みが多く、日頃気にとめない市内の史跡・文化財を見学していただきました。

(10) 各種講座への講師派遣

前橋市教育委員会社会教育課生涯学習担当で主催する「学びのつどい」などの文化財講座に講師として依頼され計20回出向き、地域の文化財を紹介するなど普及活動に努めました。

(11) 文化財防火デー

「貴重な文化財を火災から守ろう」と１月26日に前橋市消防本部と協力して火災防御訓練や防火査察を実施しました。本年度で第36回目を迎えた文化財防火デーは、昭和24年１月26日に奈良法隆寺の壁画が焼失した日を契機に毎年実施されています。本年度は、次の指定文化財所在地で訓練や査察を行いました。

○火災防御訓練

・二宮赤城神社（前橋市二之宮町886）

○防火査察

二宮赤城神社の火災防御訓練

・前橋市蚕糸記念館・東照宮・臨江閣本館別館

・旧アメリカンボード宣教師館・孝顕寺

・慈照院・無量寿寺・二宮赤城神社・日輪寺

・善勝寺・上泉郷倉・上野総社神社・光巌寺

・大徳寺

(12) 文化財資料の貸し出し

文化財資料の貸し出しは、１年間で20件、総点数227点に及びました。その中で特筆されるのは次にあげるものです。

・「放光寺」軒丸瓦等　３点
（奈良国立博物館へ）

・頭無遺跡出土旧石器・奈良三彩小壺　21点
（群馬県立歴史博物館へ）

・前二子古墳出土一括土器　13点
（栃木県立しもつけ風土記の丘資料館へ）

(13) 文化財保存団体助成

市内で文化財保護・保存のために活動している次の文化財保存団体に本年度も補助金の助成を行いました。

○総社地区史跡愛存会

○荒砥史談会

○前橋市郷土芸能連絡協議会

○片貝神社太々神楽保存会

平成２年１月９日初市に参加した片貝神社太々神楽

(14) その他

○「広報まえばし」への執筆

○前橋市蚕糸記念館の展示

○前橋市中央公民館文化財展示室の展示

○前橋市庁舎一階ロビーの展示

○文化財に関する問い合わせ・相談への対応

○体験発掘

４．調査事業

平成元年度の調査事業は、次の内容であった。文化財調査委員による調査、民俗文化財総合調査、観光資源保護調査、職員による調査。

この内、観光資源保護調査と職員による調査について報告する。

観光資源保護調査

観光資源保護財団（日本ナショナルトラスト）が平成元年度の調査事業として、総社元総社歴史の散歩道計画の調査を行なった。

これは、前橋市の申請を請けて実施されたもので、調査委員長の東京農業大学の進士五十八教授を中心に委員会を組織し、調査を実施した。

この地区内の特色ある景観をつくっている樫ぐねが残っている民家や駅前広場、天狗岩用水などを調査し、それぞれ現状写真と改善案を示したイメージ図を並べて提示している。

提案された５コースは、群馬総社駅を発着点とし、天狗岩用水、蛇穴山古墳などを回る「天狗岩コース」「かしぐねコース」、新前橋駅を発着点に国分寺跡、総社神社などを訪ねる「夕焼けコース」、群馬総社駅を出て、宝塔山古墳などを回る「せせらぎコース」と、新前橋駅、群馬総社駅を発着点に二子山古墳、光巌寺などを含む「古代ロマンコース」である。

この地区の古墳、社寺、街並みなど各時代の質の高い歴史遺産を有機的に結びつけるコースとしており、地域資産のネットワークによるまちづくりのための方針を示している。

豊かな歴史遺産をただ保存するだけでなく、活用しながら残していくことが大切であり、この報告が市民の理解に役立てば、今後の街づくりに役立つことだろう。

平成２年度、11月18日に進士委員長を招いて、現地報告会を総社公民館で開催する。また、それに合わせて、地元でも文化財めぐりなどの行事が計画されている。

二宮赤城神社神事調査

平成元年11月30日

この神事は、11月の最終の午の日に行なわれる。12月の最初の辰の日には御神幸が行なわれる。その前に神域の悪魔をはらって清浄にするために行なわれる。

御神幸は、４月と12月の年２回三夜沢の赤城神社との間を御神体が往復する神事である。

昔は神衣祭（かんみそさい）と呼び、神様に衣をさしあげる祭りであった。

この神事で境内を清め、その間に着物を作り、御神幸でその着物を持っていくという。今は着物はつくらない。

当日の午前中に総代が茅を取ってくる。長さ６cmほどに切り、和紙の小片をはさみ、小さな矢を作る。これを1000本つくる。

50本ずつ束にし、木の箱に入れる。これには肩かけの紐が付き、神事の間神主の付添いが掛け、矢を渡す。神主は桑の枝と麻の紐で作った弓を持つ。

真夜中を過ぎ、午前１時から行なう。この神事を見たり、出会ったりしないほうが良いと云われている。

神主が矢を射りながら、神社の東、南、西の神域の境まで行く。そこにはしめがはってあり、昔は道に縄を巡らせた。

この間、一言も言葉を発してはいけないし、明かりを使用してはならない。

そのため、調査においても、補助光源は使用しなかった。なお、この矢は、拾っておくといいことがあるといい、朝早く地元の人が拾う。

二宮赤塚神社　神事

埋蔵文化財発掘調査事業

本年度の発掘をふりかえって

平成元年度の埋蔵文化財調査事業は、13遺跡に及ぶ発掘調査をはじめとして、芳賀団地遺跡調査報告書第３巻の刊行に向けての整理作業、さらに各種開発事業に伴う事前の確認調査を多数実施しました。(詳しくは別表参照)

本年度もまた記録保存という形で先人の残した多くの文化財（遺跡）が失われてしまいましたが、その成果として前橋の古代史を解き明かす上での貴重な資料を得ることができました。

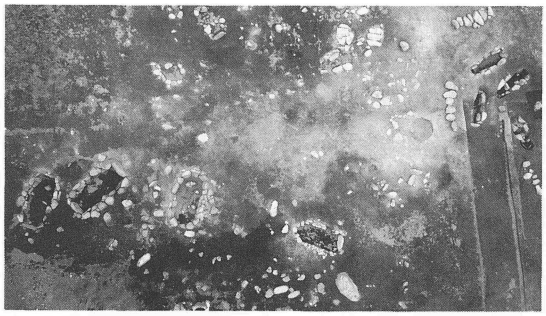
横俵遺跡群(荒砥工業団地造成に伴う発掘調査)では、３遺跡の調査が並行して行なわれ、それぞれ多大な成果をあげることができました。

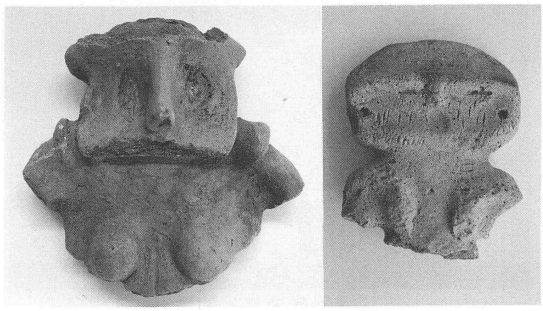
63年度から継続して行なわれている大道遺跡では、縄文時代から中世に至るまでの数多くの遺構が調査され、その中でも土偶・土版・岩偶・石棒などの祭りに使用されたものと思われる特殊遺物が出土しており、さらに35基にのぼる縄文時代後期の本格的な配石遺構は市域では初めてのものであり、残存状況が非常に良好であるということも合わせてマスコミにも報道され話題を集めました。

内堀遺跡群（大室公園造成に伴う発掘調査）では、先年度に引き続いて五料沼の北側部分で古墳時代初頭の集落跡が調査され、三古墳築造前の地域の歴史の一端があきらかにされました。

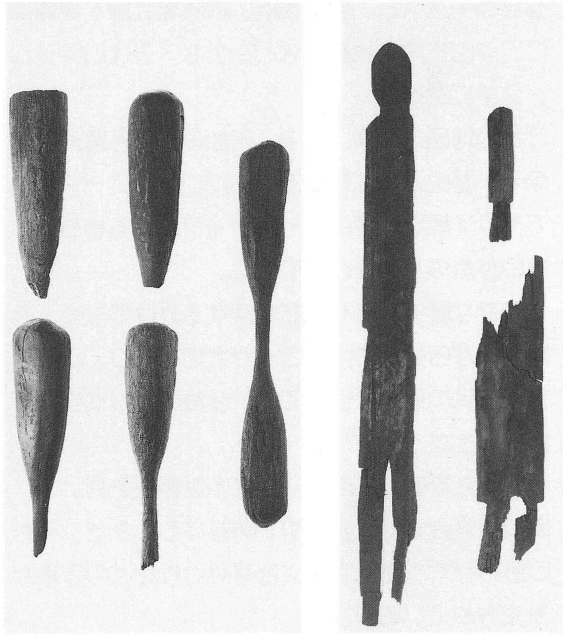
元総社明神遺跡（区画整理に伴う発掘調査）では、牛池川の河川改修部分を中心として調査が行なわれ、縄文時代から弥生時代にかけての遺物包含層・古墳時代の水田跡（ミニ水田)・平安時代の水田跡、住居跡16軒、土坑、溝などのほか、中世の蒼海城の堀跡も発見されました。河川の氾濫原ということで出土遺物の種類は多く、特に木器や加工材に見るべきものがあり、中でも県内では初めての出土例となる大型人形（ひとがた）は、注目されるものです。その他山王廃寺や上野国分寺と共通する文字瓦も多数出土しました。

なお荒子小学校校庭Ⅲ遺跡では、関係者の協力により、校舎校庭の造成に併せて竪穴住居と掘立柱建物各１棟が発見された原位置で復元されたことは埋蔵文化財の保存と普及に対しての喜ばしい出来事でありました。





大道遺跡の配石遺構(上)と土偶

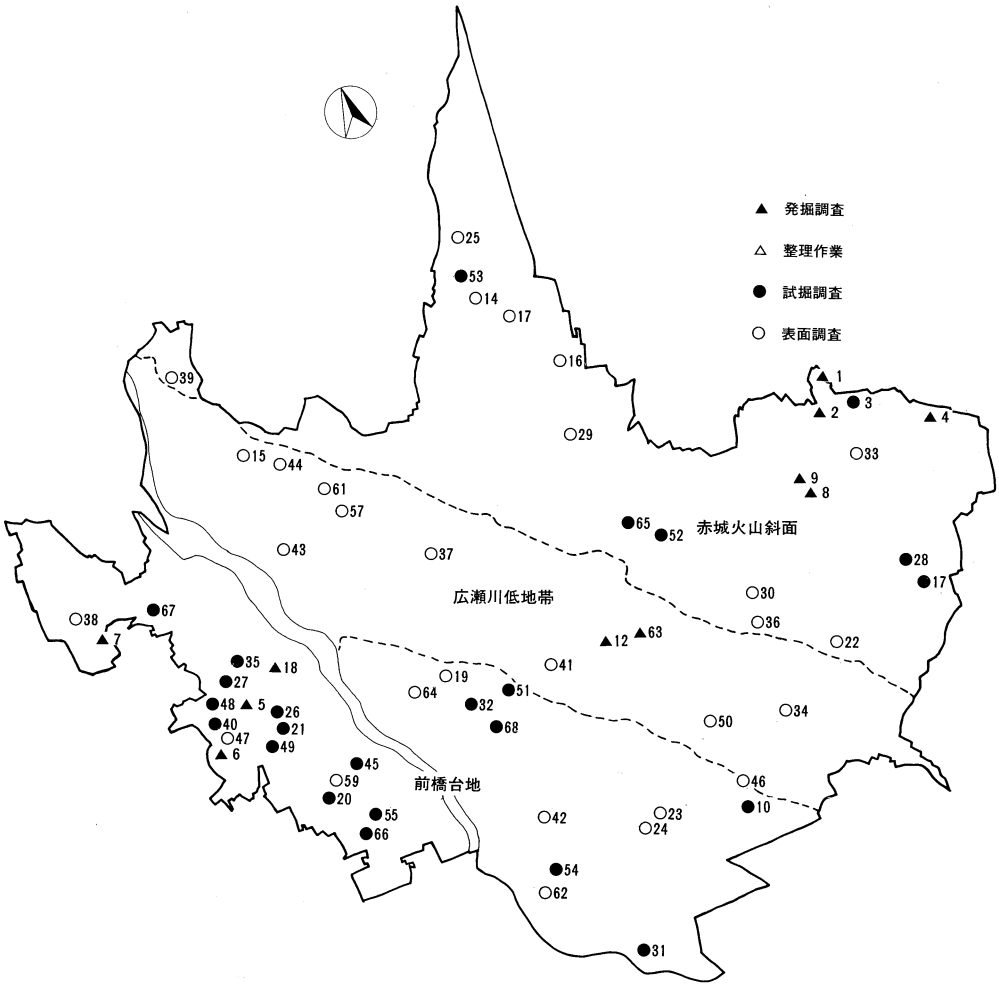


元総社明神遺跡出土木器と人形

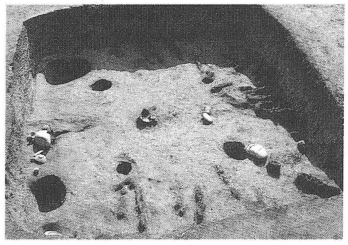
発掘調査一覧

番号	遺跡名	遺跡コード	地番	調査面積㎡	調査原因	表面調査結果	試掘調査結果	本調査期間・備考
1	横俵遺跡群（熊の穴遺跡）	1E19	西大室町熊の穴5－1　外	23,382	荒砥工業団地造成	有	有	H1．4．26～1．11．30
2	横俵遺跡群（大道遺跡）	1E14	下大屋町811　外	40,851	〃	有	有	H1．4．12～2．1．15
3	横俵遺跡群（試掘調査）		西大室町、大久保、中横俵、熊の穴	175,000（10,000）	〃	有	有	H1．9．4～1．9．30
4	内堀遺跡群III	1E11	西大室町上縄引地内	12,500	公園造成事業	有	有	H1．4．27～1．10．31
5	元総社明社遺跡VIII	1A41	元総社町地内	4,307	区画整理事業	有	有	H1．4．28～1．12．27
6	弥勒遺跡	63A40	元総社町弥勒1237～38	2,000	宅地造成	有	有	H1．5．15～
7	熊野谷II遺跡	1A42	青梨子町1219　外	1,000	青梨子住宅団地造成	有	有	H1．6．2～1．6．30
8	荒子小学校校庭III遺跡	1E20	荒子町大久保地内	3,683	荒子小学校校庭拡張	有	有	H1．6．22～1．8．23
9	前山II遺跡	1E22	下大屋町292　外	1,956	泉沢工業団地造成	有	有	H1．9．4～1．10．9
10	前田遺跡群（試掘調査）	1G7	東善町102　外	100,000（3,250）	東善住宅団地造成		有	H2．2．2～2．3．31
11	新宿遺跡（試掘調査）	1E23	飯土井町400　外	59,000（3,000）	城南工業団地造成		無	H2．2．27～2．3．31
12	窯遺跡	1F1	野中町406－2	150	店舗建設		有	H2．2．6～2．2．8
13	二子山前II遺跡		文京町三丁目、天川町地内		二子山土地区画整理		有	㊟H1．5．24
14			小坂子町字倉井田	35,000	土地改良	無		㊦H1．6．21
15			日輪寺町字伊勢原・荒牧町青柳西	3,713	公民館建設	有		㊦H1．10．25
16			荻窪町680　外	38,923	廃棄物処分場	無		㊦H1．12．6
17			小坂子町字霞替戸1201－1、2	4,896	運動場造成	無		㊦H1．12．20
18			大渡町2丁目3－11	3,300	温水プール建設		無	㊟H2．2．22
19			文京町1－586－1　外10筆	3,527	マンション建設		無	㊟H1．4．10
20			古市町字新道379－1　外3筆	1,974	店舗建設		無	㊟H1．5．11
21			元総社町第3街区8－14－1　外	2,026	倉庫建設		無	㊝H1．4．26・29
22			二之宮町1545－2　外2筆 下増田町1972－4　外2筆	6,000	飼料貯蔵施設建設	無		㊦H1．4．5
23			西善町字壱町900－1　外	1,750	ドライブイン建設	有	無	㊦H1．4．13
24			西善町86	1,372	ガソリンスタンド建設		無	㊟H1．5．18
25			嶺町903－4　外5筆	3,980	廃棄物処理場	無		㊦H1．4．28
26			元総社町字屋敷3764－1	926	マンション建設		無	㊟H1．5．15
27			総社町総社字甲稲荷塚3014	958	アパート建設		無	㊟H1．5．16
28			荒子町字薮沼乙527－4	1,657	倉庫建設	有	有	㊟H1．7．20
29			上泉町1871－1　外	200,000	宅地造成	有		㊦H1．5．31
30			今井町468－1　外	8,600	工場建設	有		㊦H1．5．16
31			新堀町	132,000	宅地造成	有	無	㊟H1．6．26
32			天川原町56－2、3	1,150	店舗建設		無	㊟H1．6．16
33			西大室町字伊勢山601－3　外2筆	4,164	土採取	無		㊦H1．6．13
34			小屋原町1365－1、1370－1	3,134	教育施設建設	無		㊟H1．6．15
35	稲荷塚道東遺跡		問屋町2－9－10	1,109	マンション建設		有	試掘調査で遺跡の概要がつかめた
36			今井町179－7、180－8	1,543	ガソリンスタンド建設	無		㊦H1．7．6
37			三俣町3－25－2　外5筆	1,378	宅地造成	無		㊦H1．6．30
38			青梨子町698－2	1,000	ガソリンスタンド建設	無		㊦H1．7．12
39			田口町457－1	16,015	宅地造成	無		㊦H1．7．6
40	草作II遺跡		元総社町字草作1281　外	10,517	宅地造成		有	試掘調査で遺跡の概要がつかめた
41			天川大島町3－30－7　外8筆	1,308	宅地造成	無		㊦H1．7．6
42			上佐鳥町751－1　外2筆	5,860	廃材処理施設建設	無		㊦H1．7．14
43			上小出町字庚申塚680	1,008	共同住宅建設	無		㊦H1．7．19
44			龍蔵寺町308－1、308－5	2,477	アパート建設	無		㊦H1．7．31
45			小相木町字高田355－1　外5筆	2,277	事務所建設		無	㊟H1．8．2
46			東善町字村内390－13　外23筆	6,932	建売分譲建設	無		㊦H1．8．1
47			元総社町弥勒1216　外8筆	4,396	宅地造成	無		㊦H1．9．13
48			元総社町小見の内1752	1,445	宅地造成		無	㊟H1．8．28
49			元総社町14－1　外	2,025	農協建替		無	㊟H1．9．18
50			山王町2－40－14	3,062	郵便局建設	無		㊦H1．9．19
51	二子山前III遺跡		天川原町二子山前133－5　外	3,488	貸店舗建設		有	試掘調査で遺跡の概要がつかめた
52			江木町31－5、31－7	1,355	ガソリンスタンド建設		無	㊟H1．10．25

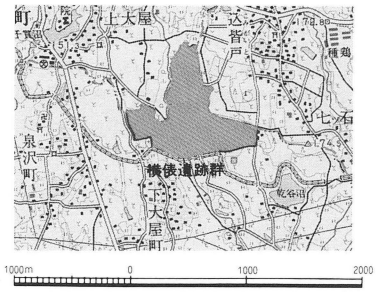
番号	遺跡名	遺跡コード	地番	調査面積㎡	調査原因	表面調査結果	試掘調査結果	本調査期間・備考
53			嶺町大林下	24,551	ゴルフ練習場		無	㊙H1.11.30
54			亀里町362－4　外3筆	3,058	ドライブイン建設	有		㊙H1.10.19
55			箱田町字西中袋1127－1　外6筆	3,130	宅地造成		無	㊙H1.10.30
56			元総社町字草作1358	1,728	宅地造成		無	㊙H1.11.7
57			北代田町640－1、2	2,145	アパート建設	無		㊙H1.11.9
58			上泉町664－1　外3筆	1,984	工場付帯施設	無		㊙H1.12.13
59			小相町288－1　外2筆	2,630	マンション建設		無	㊙H2.1.10
60			上新田町字下新田浦1367－1	11,615	住宅建売分譲	無		㊙H2.1.5
61			龍蔵寺町字砂塚2　外2筆	3,088	住宅建売分譲	無		㊙H2.1.20
62			公田町666－5、667－1　外3筆	5,511	ドライブイン付帯施設	無		㊙H2.1.10
63	伊勢遺跡		上長磯町296－1　外2筆	2,186	ガソリンスタンド建設		有	㊙H2.2.16
64			南町三丁目190－1	441	事務所建設	無		㊙H2.3.7
65			堀之下町字樽海道路上453	1,500	ガソリンスタンド建設		無	㊙H2.4.9
66			箱田町字木下1392－1　外8筆	1,505	建売分譲住宅建設		無	㊙H2.3.29
67			高井町1－12－7	2,296	事務所建設		立合い	㊙H2.3.22
68			天川原町字東下146	2,020	店舗兼事務所建設		無	㊙H2.2.26



1．横俵遺跡群（直営分）



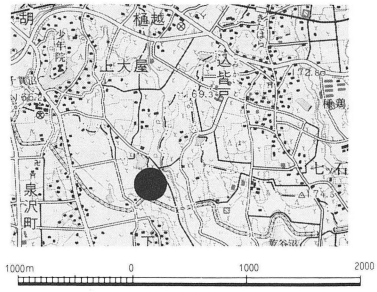
遺跡位置図（国土地理院５万分の１　前橋）



事業名　荒砥工業団地造成工事（前橋工業団地造成組合）
所在地　前橋市西大室町57-2番地ほか
調査期間　元年４月26日～元年11月30日
担当者　駒倉秀一・都所敬尚
調査面積　24,000㎡
調査の経緯　平成元年４月１日付けで前橋工業団地造成組合より荒砥工業団地造成に伴う調査依頼が提出された。同年、表面調査を経て、開発優先順位の高い地区から調査を開始した。平成元年度は開発地内の幹線道路部分を調査団直営で試掘調査と発掘調査を並行して実施した。
立地　横俵遺跡群は、前橋市街地の東方約９kmに位置している。北は大胡町、東は粕川村に接し、地形的には、赤城山南麓に広がるなだらかな斜面上に立地している。この赤城山南麓斜面上は古墳の宝庫であるとともに、近年、土地改良事業や大規模な開発事業が極めて多く、それらに伴い調査された遺跡の数も非常に多い。また、今回の調査においては、調査範囲が広大であるため、便宜的に中横俵・上横俵・熊の穴・大久保の４遺跡に分け、調査にあたった。
旧石器時代　なし。
縄文時代　熊の穴遺跡から住居址４軒、土坑19基が検出された。出土遺物から前期の集落であると思われる。主体となる土器は約5,000年前にあたる前期諸磯式土器である。市内の遺跡から前期の住居址の検出例は少なく貴重な事例となった。
弥生時代　なし。
古墳時代　熊の穴遺跡から住居址10軒、土坑28基、井戸１基、古墳１基が検出された。いずれの住居址からも主体となる出土遺物は赤井戸系土器であった。さらに、Ｈ－８からはミニチュア土器、高杯等が、Ｉ－１からはミニチュア椀、小甕等が出土し、全体的にみても祭祀に関係があるとみられる遺物が数多く検出されている。また、Ｈ－６からは炭化材が壁に対して直角にまとまって検出された。焼失した家屋であると思われる。Ｍ－１は終末期の円墳である。傾斜地に立地しているため、いわゆる『山寄せ』の工法を使用して築造されている。石室の石組も良好な状態で検出された。
奈良時代　なし。
平安時代　大久保遺跡から住居址が２軒検出された。Ｈ－１からは『東』・『中』と書かれた墨書土器が出土している。

2．横俵遺跡群大道遺跡

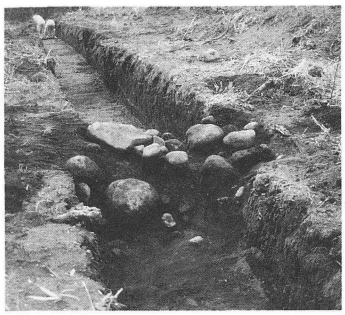
遺跡位置図（国土地理院５万分の１　前橋）



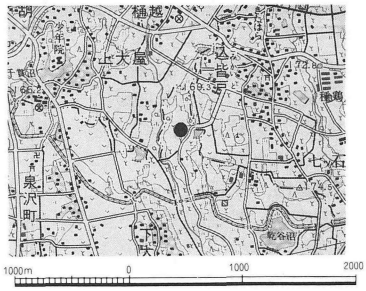
事業名　荒砥工業団地造成
所在地　前橋市下大屋町上八光811番
調査期間　平成元年４月12日～平成２年１月15日
担当者　遠藤和夫（市発掘調査団）近江屋成陽、間宮政光（山武考古学研究所）
調査面積　40,851㎡

調査の経緯　荒砥工業団地造成に伴う開発行為に先立ち、前橋市工業団地造成組合より調査依頼を受ける。調査主体は前橋市埋蔵文化財発掘調査団、調査実務を山武考古学研究所が実施した。
立地　本遺跡は上毛電鉄大胡駅から南へ約2,5km。前橋市の東部、旧荒砥地区に位置する。
本遺跡の立地する赤城山南麓は広大な裾野地形を形成し、北から南への緩傾斜地となっている。
本遺跡は利根川の支流である神沢川の右岸台地上に存在する。地表面は幾度かの河川の氾濫により、ローム台地の原形面、砂壌土、沖積地の粘質土と複雑な土壌になっている。標高は137m～141m。
縄文時代　遺構は、調査区の南側に集中する傾向を示している。墓域と考えられる配石遺構をとり囲むように住居址が存在する。配石は形態別に分けると、円形、石棺型、敷石状のものに分けられる。
遺物は住居址内より称名寺式、堀之内式、加曽利Ｂ式の土器が伴出している。また住居址の石囲炉には多孔石が使われるものがある。
古墳時代　古墳時代では前期と後期の住居址が検出されている。前期のものは調査区の東よりに北から南へと集中して検出され、後期のものは西よりに北から南へと集中する傾向を示す。また、直径２m前後深さ確認面より約１m50cmの円形土坑が北部に集中しており同遺構内からは、後期の遺物が出土している。
平安時代　住居址３軒がそれぞれ離れたところで検出されており、主軸方位も異なる。
中・近世　薬研堀の溝を２条検出。
本遺跡では、特に縄文時代の遺構、遺物が赤城南麓でまとまって検出した例は少ない為、資料的な価値は大きいと考えられる。

3．横俵遺跡群(試掘)



遺跡位置図(国土地理院５万分の１　前橋)



事業名　荒砥工業団地造成事業
所在地　前橋市西大室町（荒砥工業団地３・４街区）地内
調査期間　平成元年９月４日～９月30日
担当者　遠藤和夫・新保一美（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）
金子正人・白石光男（スナガ環境測設株式会社）
調査面積　175,000㎡

調査の経緯　前橋工業団地造成組合(管理者清水一郎「前橋市と群馬県が地方自治法により組織した一部事務組合」)より埋蔵文化財発掘調査の要請を受け、市教育委員会と同組合と協議調整を計り、事業計画面積の広大なことを考慮し、試掘調査による概要把握を行うもので、市教委のもとに組織された市・調査団の指導のもとにスナガ環境測設㈱が実施した。

立地　前橋市の東北部丘陵地北辺が大胡町及び粕川町と境界を成し、緩傾斜の地形は南へ向う舌状台地である。この台地の最高部は標高165mである。西100mを南下する神沢川は、標高約140mを示し、これに沿って左岸側上流から熊野穴、上横俵、合せて約10haの遺跡群がある。又左岸を東へ300m程に約7.5haの調査地(大久保)が、粕川村込皆戸に隣接している。

大久保遺跡　調査区全域に試掘溝（トレンチ巾約1.2m長約30～100m）10本を設け遺構・遺物の検出に務めたが、遺構は検出されなかった。遺物は石斧１点を含め石器３点を表採、試掘溝で１点格出した。

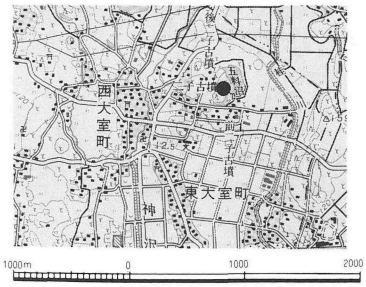
上横俵・熊野穴遺跡　古墳らしきもの共遺構30基、住居跡、古墳の周溝、溝、集石遺構その他を含め30件前後を確認した。

遺物　表採を含め石器、縄文土器片、土師器片等、数多く検出した。

上横俵遺跡は、台地の南端部に位置し古墳が多く、埴輪片、石器類が遺物から多量に出土している。台地の中央部以北が熊野穴遺跡である。この中央部から縄文土器片と石斧等、北端部から縄文土器片及び弥生後期～古墳前期の土器片と石器類が出土している。

4．内堀遺跡群Ⅲ

遺跡位置図(国土地理院５万分の１　前橋)



事業名　大室公園整備事業（公園緑地課）
所在地　前橋市西大室町
調査期間　元年５月８日～元年10月31日
担当者　園部守央・鈴木雅浩
調査面積　12,658㎡

調査の経緯　上記事業に先立ち公園設計の基礎資料とすることを目的とし、公園緑地課より調査依頼があり、昭和62年度に公園予定地全域の確認調査、昨年度の10,000㎡の発掘調査に続き、今年度で３年目の調査に至った。

立地　前橋市の東端、赤城山南麓の丘陵地に位置する。北に粕川村、東に赤堀町が隣接し、周辺には三二子古墳をはじめ、上縄引遺跡、梅木遺跡、赤堀茶臼山古墳などがある。

旧石器時代　なし。

縄文時代　遺構は検出されなかった。遺物は早期の田戸式土器、中期の加曽利Ｅ式土器、後期の堀之内式土器、称名寺式土器等が散在して出土した。

弥生時代　弥生終末期の赤井戸系土器もみられるが、古墳時代の土師器を共伴しており時代の特定は難しい。

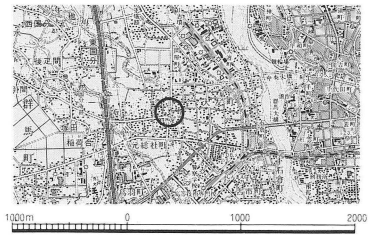
古墳時代　古墳１基、石槨墓１基、住居址16軒、土坑８基を検出した。古墳は直径11mの円墳で、北隣に位置する上縄引遺跡の墓域に続くものと考えられる。墳丘は削平されており石室は確認できなかった。石槨墓は６世紀以降の構築と考えられ規模は0.7m×1.8mである。７枚の蓋石で覆われ、石槨内の床面及び石組の間には白色粘土が貼られていた。住居址はすべて古墳時代前期のもので、大型のものは一辺７m以上を測る。また昨年度の調査結果を合わせみるとこの一帯の住居址群が想定できる。さらに住居址内から出土した遺物は、櫛描文系土器（樽系）や縄文系土器（赤井戸系）と共に土師器を共伴し、時代の移行を物語るかのように複雑な様相を呈する。

奈良・平安時代　溝址１条を検出。溝の底から土師器の高台付き椀が出土した。内黒で外側に墨書がみられる。

中・近世　作物の貯蔵用と思われる方形の土坑多数検出。その他、窯址２基を検出した。

5．元総社明神遺跡Ⅷ

遺跡位置図(国土地理院５万分の１　前橋)



事 業 名　前橋　市計画事業元総社（西部第三明神）地区土地区画整理事業（施工者 前橋市　代表者 藤嶋清多）
所 在 地　前橋市元総社町2067-2番地ほか
調査期間　元年４月28日～元年12月27日
担 当 者　前原　豊・井上敏夫
調査面積　2,610㎡

調査の経緯　57年度より上記事業に伴う調査依頼が継続して提出され、第８年次を迎えた。今年度は昨年度に引き続き、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団と分担して牛池川河川改修部分に伴う５ヵ所の低湿地を発掘調査。

立地　前橋市街地の西約２kmに位置する。地形的には、榛名山東南麓に広がる相馬ケ原扇状地の端にあたり、染谷川と牛池川にはさまれた台地の緩やかな斜面上に立地している。本地域は古くから上野国府推定地とされ、周辺には国分寺や山王廃寺、宝塔山・蛇穴山古墳等が存在する。

縄文時代　遺物包含層から中期：加曽Ｅ４・後期：加曽利Ｂ・晩期終末：氷系の土器や石器に混じり翡翠の硬玉製大珠が出土。

弥生時代　遺物包含層より弥生前～後期の土器が出土。

古墳時代　４世紀中葉と６世紀初頭の２層の水田址。ほかに泥炭遺物包含層から1,000点を超える木器・木製品・加工材・自然木が出土。竪杵・ナスビ形鍬・弓・杭・柱がみられた。

奈良時代　なし。

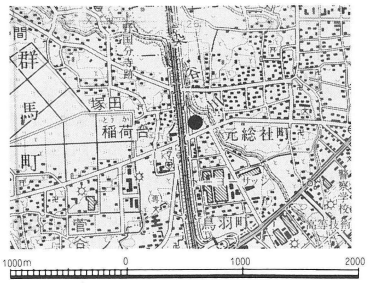
平安時代　住居址16軒・竪穴状遺構３基、土坑43基、井戸３基、溝32条のほか12世紀初頭の水田址が検出された。

遺物包含層からは木製品や獣骨が多数検出された。特に人形（ひとがた）の出土は県内で初例であり、調査地点が禊や祓に用いられた祭祀の場であることが想定できる。また、中国産の白磁・青磁も30点以上みつかった。国府域である特殊性を物語る遺物といえる。判読できた文字瓦の中で、平安期の郷名であり「和名抄」甘楽郡一三郷の１つである「那射郷」（現在の富岡市南蛇井付近）、「方光」「勢」「雀」「若人」「七」「八」「阿」や３重孤文を持つ山王廃寺系の軒平瓦が出土した。また「方光」は山王廃寺の刻印と同笵。「七」「八」「阿」は山王廃寺でも多出。「勢」は上西原遺跡や上野国分寺と同笵。「雀」は上植木廃寺との同笵。この結果、国府域出土の瓦の多くは、国分寺や山王廃寺から後世に持ち運ばれた転用瓦といえる。

中　世　蒼海城関係の遺構とみられる「堀」。漆椀が出土。

6．弥勒遺跡

遺跡位置図(国土地理院５万分の１　前橋)



事 業 名　民間開発（宅地造成事業）
所 在 地　前橋市元総社町1237番地外
調査期間　元年５月16日～２年３月20日
担 当 者　新保一美（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）・荻野博巳（スナガ環境測設株式会社）
調査面積　2,000㎡

調査の経緯　宅地造成事業計画（事業者中央群馬土地㈱）の開発行為の許可申請に伴う調査依頼を受け、市教育委員会と事業者で協議調整し試掘調査を実施したところ平安時代等の遺構遺物が出土し発掘調査を実施することになり、市教育委員会のもとに組織する市埋蔵文化財発掘調査団の指導のもとにスナガ環境測設株式会社で実施、発掘調査作業を平成元年５月16日～７月15日、整理作業を平成元年７月16日～平成２年３月10日の期間とした。

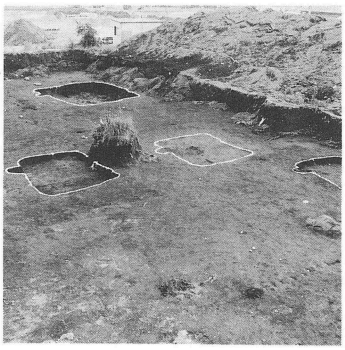
立地　榛名山相馬ケ原扇状地を流下する染谷川右岸台地にあり、周辺は市街化が進み、南方向150mに（主)前橋高崎線が安中市方面に走り、西150mに関越高速道が走る。史的には、上野国府推定地上野国分寺・国分尼寺など5～600mの周辺に存る地である。

遺構　住居跡21軒、土坑９基を確認したが残存状況は良くない。平安時代住居跡19軒、形状は横長の隅丸方形を呈するものが多く、カマドが東壁南寄に有するもの６軒を確認した。全面貼床の住居跡３軒あり、カマドに丸瓦、平瓦が使用されているもの３軒を確認した。

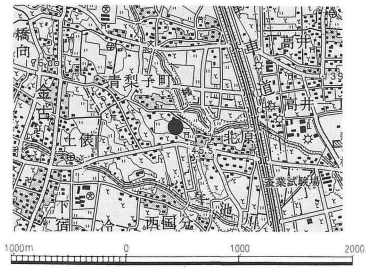
遺物　土師、須恵器は古墳時代～平安時代にもの、杯は鬼高１、特筆に値いする甕は内部室が２室に仕切れ、注口が２ケ所、櫛描波状文が下部にある。杯、高杯、カメ類は５世紀末～７世紀代のものが出土している。他に口縁がコの字状のカメ、Ｂ軽石下の住居跡より皿状の杯、などの他にも多くの出土物がある。

文字瓦の出土、上野国分寺跡などと同様の押印瓦などが検出されている。

7．熊野谷Ⅱ遺跡



遺跡位置図(国土地理院５万分の１　前橋)



事業名　青梨子・前原住宅団地造成
所在地　前橋市青梨子町字熊野谷地内
調査期間　平成元年６月２日～６月30日
担当者　遠藤和夫・園部守央・鈴木雅浩
調査面積　1,000㎡

調査の経緯　平成元年４月１日付けで前橋工業団地造成組合より本開発に伴う調査依頼が提出され、63年度実施の熊野谷遺跡の追加分として厚生住宅解体後調査することになった。

立地　本遺跡は、市の北西部群馬町と接する部分に所在し、榛名山東南麓に広がる相馬ケ原扇状地の端にあたる。北東部には八幡川、南西部には牛池川がそれぞれ東流しており、小河川に開せきされた台地の先端部に遺跡は所在する。

旧石器時代　遺構・遺物ともなし。

縄文時代　確認トレンチを調査地の東端に設定したが、遺構・遺物とも確認されなかった。

弥生時代～奈良時代　なし。

平安時代　63年度調査の熊野谷遺跡の続きとして住居跡が４軒確認された。

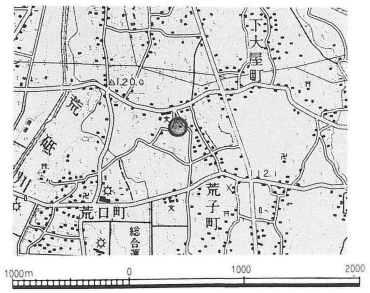
カマドは、前回の調査と同じく全て東向きに造られており、その内３軒については住居の残存状態が５～20cmと悪く、カマドも底部を残すのみであった。Ｈ－４住居跡は、今回調査された住居跡の中では最も大きいもので、中央部に1108年(天仁元年)降下の浅間山火山灰層がレンズ状に堆積しているのが確認された。住居の造としては前年度調査のＨ－５と良く似ており、カマドの左右に棚が設置されていたものと思われる。また、土の堆積状況は、同じく前年度のＨ－２・３と共通するものをもっている。

出土遺物は、土師器・須恵器が中心であるが量的に少なく、羽釜・高台付椀・鉄製槍ガンナ等が検出されている。

今回の調査は、前年度末調査部分の調査であったが、北半分には以前厚生住宅が建てられていたため遺構の残りが悪く、住宅地外の一軒のみが保存状態が良好であった。

8．荒子小校庭Ⅲ遺跡

遺跡位置図(国土地理院５万分の１　前橋)



事業名　荒子小学校校舎増築
所在地　前橋市荒子町川籠替戸字大久保地内
調査期間　平成元年６月22日～８月23日
担当者　井野誠一（市調査団）安藤杜夫（山武考古学研究所）
調査面積　3,383㎡

調査の経緯　昭和63年度教育委員会総務課の事業の一環として市立荒子小学校の校舎の増築、校庭拡張が計画され、それに伴い埋蔵文化財の取り扱いについて照会があり文献調査、表面調査を行った結果、遺跡が存在することがほぼ間違いないということがわかり、発掘調査を実施することに至った。

尚、荒子小学校校庭は、荒子小学校校庭遺跡として昭和37年に群馬大学尾崎研究室により調査されており、奈良・平安期の竪穴住居址５軒ほどが確認されている。

本開発計画は２ヵ年事業として計画されており、今回の調査は平成元年２月20日～３月27日まで荒子小学校校庭Ⅱ遺跡として調査されたものの追加調査である。

立地　本遺跡は前橋市の東部に位置し市街地へは西方約7.5kmである。付近の地形は赤城山南麓へおおよそ５km緩やかな裾野地形となっている。この斜面を荒砥川、神沢川など中小河川や溜池、沼を水源とした河川が南下し、舌状台地、沖積地、扇状地を形成している。

荒子小学校は北方約2.5km勢多郡大胡町に所在する千貫沼を水源として南下している宮川の開析により形成された舌状台地上に位置している。

先土器時代　なし。

縄文時代　なし。

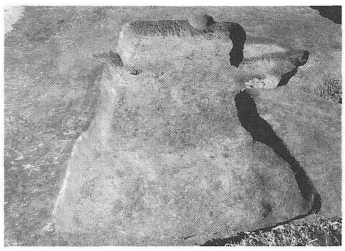
弥生時代　なし。

古墳時代　確認されなかった。

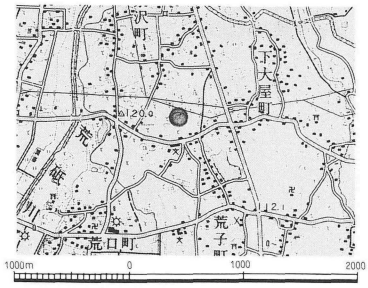
奈良・平安時代　本遺跡の中核をなすもので隣接地の調査と同じく住居址、井戸、土坑等が確認された。

前回の調査時には、住居址内より「識」の印文をもつ銅印が出土し、話題になったが、今回の調査においては『車』『干』『前酒』等の墨書土器が出土している。その他土師器、須恵器、石製紡錘車、鉄製刀子等かなり良好な資料が出土している。住居址は奈良、平安時代のものが14軒検出され、その他井戸、溝等が検出されている。

9．前山II遺跡



遺跡位置図(国土地理院５万分の１　前橋)



事業名　泉沢工業団地造成
所在地　前橋市荒子町1606番地他
担当者　遠藤和夫（市調査団）安藤杜夫（山武考古学研究所）
調査面積　1,956㎡

調査の経緯　前山II遺跡は、昭和60年度に調査された前山遺跡の未調査部分の調査である。

当初前橋工業団地造成組合より、教育施設用地として開発が計画され、校舎造成等切土部分のみの調査が実施された。

その後開発計画が変更され、工業団地として造成されることとなり、前回の未調査部分の調査が必要となり、平成元年９月より試掘調査を、同月遺構確認部分の本調査を実施した。

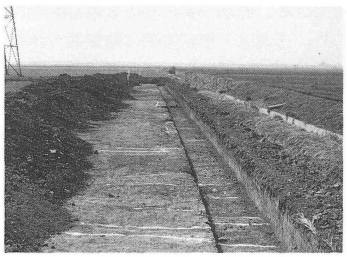
立地　本遺跡は、前橋市街地より東方へおよそ7.5㎞の距離に位置する。北方およそ５㎞で赤城山南麓が広がり、その裾野にある大胡町に所在する千貫沼を水源とし利根川へ合流する荒砥川に流れ込む宮川により開析された舌状台地が今回の調査対象になった。

宮川の沖積地を挟み東西に比高８～10ｍの微高地が広がる。西側台地は縄文時代前期を主体とした前山遺跡、古墳群、方形周溝墓等が検出されている新山遺跡と隣接し、東側台地は勢多郡衙址と考えられる基檀を有した柱穴列と溝及び奈良平安時代の集落址である上西原遺跡に隣接している。

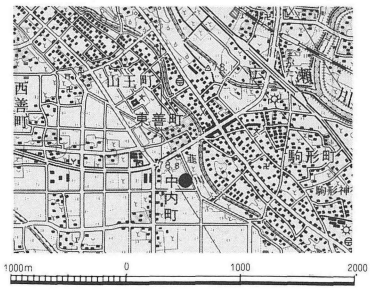
先土器時代　なし。
縄文時代　土器、石器片数点検出。前期土坑１基。
弥生時代　遺物、遺構ともなし。
古墳時代　なし。
奈良・平安時代　住居址４軒を検出した。内３軒が重複の住居址である。試掘の結果では、集落として広がる様相は見られなかった。

本遺跡東方の上西原遺跡の調査においては、古代の役所とも寺院跡とも考えられる遺構、遺物が検出されているが、今回の本遺跡の調査でも、やはり垣根をめぐらせた大きな建物の意味である「院」「東院」等の墨書土器や、カマドに転用された布目瓦(南200ｍ付近の柳久保遺跡群でも同様なものが調査されている。)が見つかっており、上西原遺跡との、かかわりが興味深い。

10．前田遺跡群(試掘)



遺跡位置図(国土地理院５万分の１　前橋)



事業名　東善住宅団地造成事業
所在地　前橋市東善町100番地の1外
調査期間　平成２年２月１日～３月31日
担当者　遠藤和夫・新保一美（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）、荻野博己（スナガ環境測設株式会社）
調査面積　100.000㎡

調査の経緯　上記事業の実施に先がけて施工者前橋工業団地造成組合（管理者清水一郎）から埋蔵文化財発掘調査に関する要請を受け、同組合と協議調整を図り、大規模な用地を考慮して、試掘調査による概要把握を計るため市教育委員会のもとに組織した前橋市埋蔵文化財調査団の指導のもとにスナガ環境測設株式会社が調査を実施した。

立地　市域の東南端に存る東善町は、南部に伊勢崎市・玉村町と隣接する町域のある農業地帯である。当地に近接して東西に走る(主)高崎駒形線と、これに交わる(主)藤岡大胡線は、西100ｍに南下している。広瀬川低地帯を流下し広瀬川支流の韮川は、隣接して東側を南下し、前橋台地と境をなしている。標高78ｍ前後で北から南へ僅か傾斜する地形である。近隣周辺に古墳が多く点在し、金冠塚古墳は著名である。

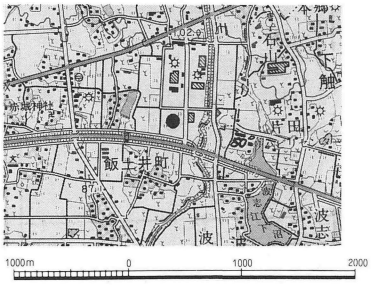
試掘調査　20ｍグリッドを設定し、団地計画道路に沿ってトレンチ（巾1.2ｍ）調査を実施した。

遺構　奈良・平安時代の住居跡18、焼土跡３か所、集石、ピット等を北西隅区域のトレンチから確認した。南東隅区域のトレンチから住居跡３ケ所が確認できた。ここでは、カマドの袖石、煙道など一部残っているものがある。

遺物　土師器、須恵器、埴、甕片などが出土している。
古墳時代　埴輪片１点が出土した。
弥生時代　遺構・遺物の検出なし。
縄文時代　遺構・遺物の検出なし。

11. 新宿遺跡(試掘)

遺跡位置図(国土地理院５万分の１　前橋)



事業名　城南工業団地拡張開発事業
所在地　前橋市飯土井町400番地他
調査期間　平成２年２月27日～３月31日
担当者　遠藤和夫（前橋市埋蔵文化財発掘調査団)・金子正人（スナガ環境測設株式会社）
調査面積　59,000㎡

調査の経緯　前橋工業団地造成組合(管理者清水一郎）より埋蔵文化財発掘調査に関する要請をうけ、市教育委員会と同組合で協議調整を図り、大規模な調査用地であることから、試掘調査による埋蔵量の概要把握を図るため市教委のもとに組織した市埋文調査団の指導のもとにスナガ環境測設㈱が試掘調査を実施した。

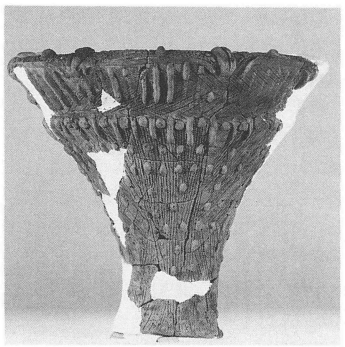
立地　本遺跡地は赤城山南麓部の神沢川右岸に位置し、東側は砂質の黄褐色ロームの微高地で、西側はローム台地からなる。今回の調査区の東側には二本松遺跡があり奈良・平安時代の住居跡多数が調査されている。また北側は女堀と東道跡があり、南は上武国道建設に伴って、飯土井二本松・飯土井中央・飯土井上組遺跡が調査され、更に南には荒砥二之堰遺跡が報告されている。

遺構・遺物

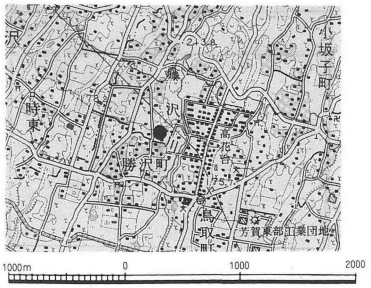
縄文時代　各トレンチより１～２点の土器片が検出された。１号トレンチＢ－２グリット内からは早期の土器片が７点石斧１点自然石１点が検出された。

古墳時代　18号トレンチＦ－９グリットよりＦＰ軽石とＢ軽石の二次堆積層より土師器片36点が検出されたが遺構と考えられる状況は確認されなかった。東側15～28トレンチからはＢ軽石の堆積層(5～15cm）が見られたが水田跡等の遺構も確認されなかった。西側１～14トレンチでは西端にローム面が見られ中央から東には砂質の黄褐色ローム層があり深堀りの状況では中央部に(5～10cm）程の礫を堆積する流路跡が存在した。試掘調査の結果本遺跡地には古代の人々の生活跡を知る遺構は確認することが出来なかった。

12. 芳賀北曲輪遺跡（整理作業）



遺跡位置図(国土地理院５万分の１　前橋)



事業名　勝沢住宅団地造成
所在地　前橋市勝沢町49番地外
整理期間　自　平成元年８月１日
　　至　平成２年３月31日
担当者　浜田博一・遠藤和夫（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）
　　金子正人・長島郁子（スナガ環境測設株式会社）
整理内容　昭和63年度発掘作業完了事業の遺物等整理業務で調査報告書を作成する。

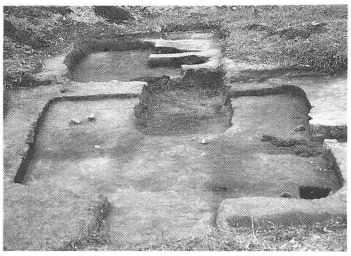
調査の経緯　上記事業の実施に先がけ前橋工業団地造成組合(管理者清水一郎）から発掘調査に関する要請を受け、63年12月１日～平成元年３月25日の間、前橋市埋蔵文化財発掘調査団の指導のもとにスナガ環境測設株式会社で発掘調査を実施した。この整理業務である。

整理の概要　赤城山南側火山斜面の裾野には多くの遺跡がある。当地は「北曲輪古墳群」の中にあり、隣接して芳賀団地遺跡がある。整理作業は発掘調査時の各種図面の整理やトレスの作業を進め、遺物の洗浄、注記、復元、計測、整図の作業、計測データーの処理、報告書原稿の執筆に当った。

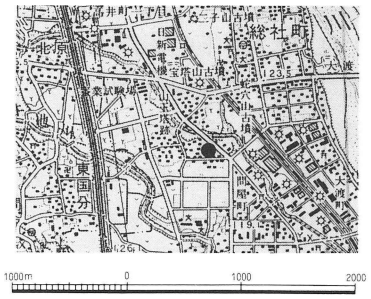
遺構　縄文時代の住居跡で前期黒浜期６軒、諸磯期５軒、中期終末期～後期初頭の環状配石住居跡１軒、柄鏡形敷石住居跡５軒、時期不明のもの８軒が確認された。古墳は７世紀中頃の群集墳６基が確認され、４基からは石室が確認された。他に土坑21基（内井戸跡１基）溝２条、風倒木跡１基、道跡１ヶ所が確認された。

遺物　遺跡地全体から縄文式土器の１部完形品、破片（前期諸磯式、中期勝坂式、加曽利Ｅ式、後期称名寺式、堀之内式等）が収納箱51箱検出された。石製品は石皿、多孔石、磨石、打製石斧、磨製石斧、敲石、鏃、石棒、岩版、岩偶、玦状耳飾等を検出。他に土偶１点。古墳時代のものは、石室から太刀、刀子、鉄鏃、人骨等を検出。周辺からは須恵器破片数点、土師器、砥石等が検出された。

13. 昌楽寺廻向遺跡



遺跡位置図(国土地理院５万分の１　前橋)



事業名　民間開発（マンション建設）
所在地　前橋市総社町総社字昌楽寺廻村東2882―12
調査期間　63年６月21日～29日
調査担当　遠藤和夫・新保一美・井野誠一
面　　積　1584㎡（発掘面積100㎡）

調査の経緯　藤和土地建物株式会社の開発計画に先立ち試掘調査依頼があり、調査の結果平安時代住居跡２軒を検出した。

これにより開発事業者と協議の結果、前橋市教育委員会直営で発掘調査を実施することとなった。

立地　前橋市の北西部にあり、榛名山東南麓の相馬が原扇状地が前橋台地に移行した所で、八幡川や滝川などの小河川に開析された低台地上に位置する。

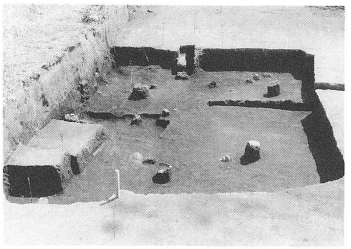
通称産業道路のほぼ中央部西側に立地し、土取り作業中に縄文炉跡と炉内の埋設土器が発見された産業道路西遺跡の北に所在する。

縄文時代　前述のように、縄文遺構が存在した地であるが、申請地全面が大きく削平を受けていたため、土器の破片が採集されたのみであった。しかしながら、周辺の桑畑では、石器を含めた縄文土器片が採集できる。

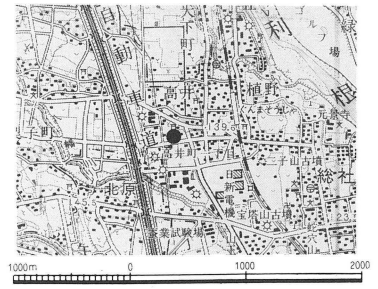
奈良・平安時代　削平の受け方の少なかった所で、２軒の住居跡が確認された。出土遺物は須恵器皿１点土師器杯２点と国分期の甕口縁部破片であった。別の一軒は住居の半分程が確認され、二つのカマドを持ち、南よりのカマドでは袖部と煙道部に白色の粘土が残存していた。これはこのカマドの使用期間が短かかったためと思われるが、このカマドに不具合が生じたので別のカマドを設けたと考えるよりも、双方共にカマドの残存状況が良いことから、新たにカマドを作り替え、その後程なく使用されなくなったものと思われる。

この住居からの遺物の出土が少ないことから判断すると、カマドの付け替え直後に何らかの理由でこの住居は廃棄されたものと思われる。

14. 柿木 II 遺跡



遺跡位置図(国土地理院５万分の１　前橋)



事業名　群馬中央倉庫株式会社の倉庫増設に伴う造成
所在地　前橋市高井町一丁目28番７・13
調査期間　昭和63年４月19日～５月９日
担当者　遠藤和夫・園部守央・鈴木雅浩・都所敬尚・加部二生・新保一美
面　　積　1230㎡のうち584㎡

調査の経緯　開発行為の実施計画に伴い昭和61年６月に試掘調査を実施したところ、住居跡及び溝を検出した。その後開発行為者と協議・調整を図り昭和63年４月より発掘調査を実施することになった。

立地　ＪＲ上越線の南西約700ｍあり、関越高速道の西方490ｍにあたる。また隣接地には住居跡と溝跡が調整された柿木遺跡がある。

縄文時代　土器片の散布はあるが遺構の確認はできなかった。

弥生時代　土器片の散布あり

古墳時代　鬼高式の土師製坏を伴う住居跡１軒を確認したが、土地改良による削平を受けているため住居跡の残存状況は良くなかった。

奈良・平安時代　コの字口縁を持つ甕を伴う住居跡を検出した。この住居跡は調査区の北東側に位置し、重複住居であった。また、壁際の上層部から縁釉片が出土している。

溝　調査区の北西から、弧を描いて中央部を東西に流れる上巾約３ｍの溝が確認された。上層にＢ軽石を含んでいる。

本遺跡の東北方隣接地に柿木遺跡があり、奈良・平安時代を中心とした住居跡６軒と溝が調査されている。

今回の調査の結果、重複住居跡は出土土器から判断して、上述の遺跡と同一集落を形成しており、調査地中央を横切る溝の南側から検出された住居跡が鬼高期のものであることから、溝によって集落が区切られていたものと思われる。

また本遺跡の溝の上部にＢ軽石層が存在するが、柿木遺跡の溝ではＢ層が確認されていないことから二つの溝の直接関連はないものと思われる。

芳賀団地遺跡調査

芳賀団地遺跡発掘調査整理事業は、昭和56年度から整理事業を開始し、昭和58年度に作成委員会を発足させ事業を行なってきた。

昭和58年度に第１巻（芳賀東部団地・谷東）、昭和62年度に第２巻（同・谷西）、平成元年度に第３巻（同・縄文～中近世）の刊行作業を行なった。

作成委員会は本年度改組を行ない、その下部で編集作業を行う編集委員会を組織化し、作業の進捗をはかった。

事業名も芳賀団地遺跡整理・遺跡台帳整備事業として市内遺跡の資料の台帳化をあわせて実施することとなった。

元年度の作業は第３巻の刊行作業と、平成２年度刊行予定の第４巻（芳賀西部団地遺跡）の整理作業、第５巻（芳賀北部団地遺跡）の整理作業を実施した。

第３巻の刊行作業に伴って、考察編の執筆と、それに伴う図版類の作成を実施し、第４巻の整理作業では、事務局による遺構の１次整理とデータ表の作成、多量の埴輪を中心とする遺物の接合と復元、石器類の実測を実施した。

第５巻の整理作業では、遺物の再洗浄と注記、台帳作りの作業を実施した。

第４巻に収録予定の遺構は、縄文時代の竪穴住居７、ピット６、配石遺構３、弥生時代のピット１と古墳31、埴輪棺直葬墓１、方形ピット１、溝４、遺構23、井戸６である。

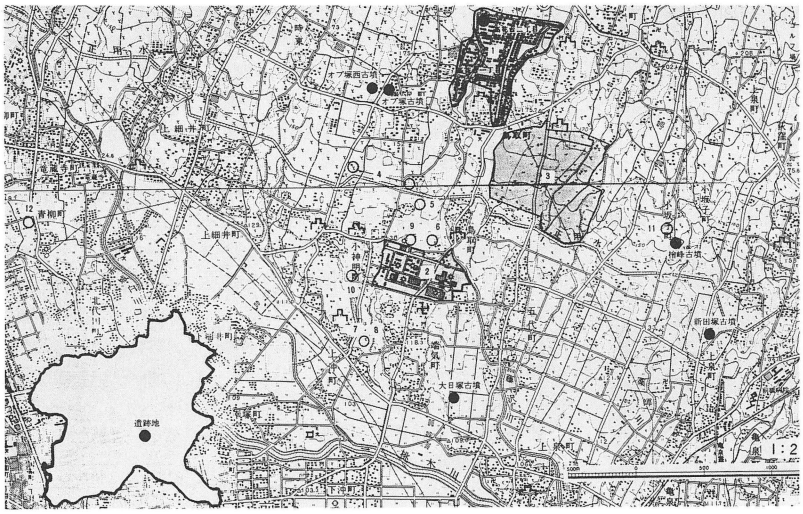
縄文時代の住居跡は全て前期前半に属し、限られた時期の住居跡であり、芳賀東部・北部の縄文時代の住居跡との係わりで注目される。

また、古墳は切り合いがなく、同一期内に造られたとみられ、造った人々や、その後削平をうけたとみられる点がありその要因についても今後の検討を要する点である。

さらに、古墳の周堀にはＦＡ軽石層がみられ、その状況も様々であり、古墳の考察のポイントになると考えられる。

台帳整備事業では、市内遺跡について、台帳化の作業を開始し、台帳作りを進めた。

２年度は第４巻の刊行作業とともに、第５巻の整理作業を実施する予定である。



あとがき

文化財というと、市民のみなさんはどんな印象をお持ちなのでしょうか。古代からの文化財を前に、静かに調査、研究をしている姿を思いうかべるかたが多いのではないでしょうか。

実際は、文化財保護の最前線として、開発関係、市民対応に追われ、事務室はにぎやかですし、職員は出払っていることが多いのが現状です。

仕事が増えることがあっても、減ることがないなかで、職員の努力の成果の一部をこの報告書にまとめました。

こんなにあるのかなと思われる方、この程度と思われる方といろいろあるかと思いますが、前橋の文化財保護行政の理解に役立てば幸いです。

平成２年９月

文化財保護課長

福　田　紀　雄

平成元年度
文化財調査委員

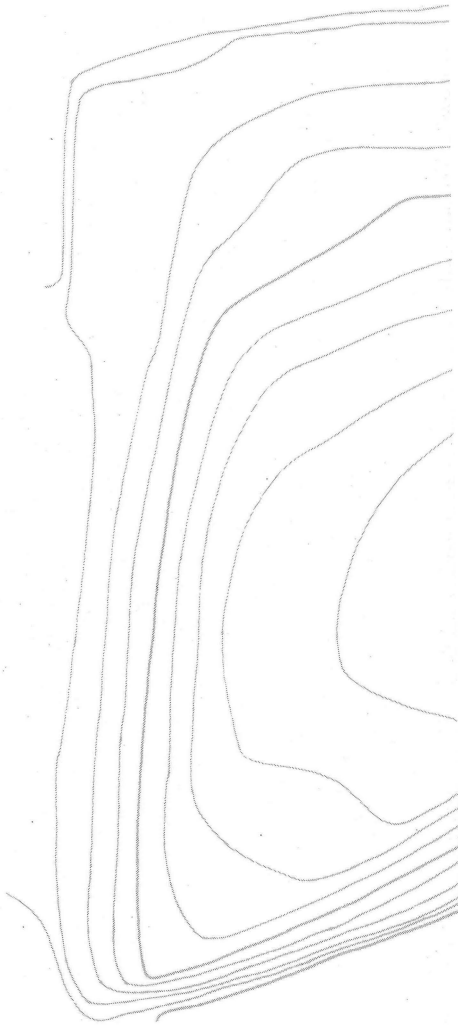
近　藤　義　雄
中　沢　右　吾
丸　山　知　良
松　島　栄　治
梅　沢　重　昭

文化財保護課職員

文化財保護課長	福　田　紀　雄
埋蔵文化財係長	浜　田　博　一
文化財保護係長	高　橋　賢　靖
主任	遠　藤　和　夫
〃	駒　倉　秀　一
〃	高　橋　正　男
〃	園　部　守　央
〃	井　野　誠　一
〃	井　野　修　二
〃	前　原　　豊
〃	関　根　吉　晴
〃	井　上　敏　夫
主事	鈴　木　雅　浩
〃	都　所　敬　尚
嘱託員	新　保　一　美

平成元年度　文化財調査報告書　第20集

平成２年９月25日印刷
平成２年９月29日発行
発　行　前橋市上泉町６６４－４
前橋市教育委員会文化財保護課
印　刷　上毎印刷工業株式会社



（遠見山古墳・総社町）